

履 修 要 覧

2005

(平成17年度)

豊橋技術科学大学

平成17年度学年暦

入 学 式	4月 7日 (木)
大学院ガイダンス・留学生ガイダンス	4月 7日 (木)
学部ガイダンス (学生生活関係)	4月 8日 (金)
学部ガイダンス (教務関係)	4月 11日 (月)
第1年次学外オリエンテーション	4月 12日 (火)
第1学期授業開始	4月 13日 (水)
第1学期定期試験	6月 23日 (木)～30日 (木)
夏 期 休 業	7月 1日 (金)～8月31日 (水)
第2学期授業開始	9月 1日 (木)
開 学 記 念 日	10月 1日 (土)
技 科 大 祭	10月 9日 (日)～10日 (月)
第2学期定期試験	11月 15日 (火)～22日 (火)
秋 期 休 業	11月 26日 (土)～30日 (水)
第3学期授業開始	12月 1日 (木)
冬 期 休 業	12月 27日 (火)～1月 7日 (土)
第3学期定期試験	2月 23日 (木)～3月 3日 (金)
大学院修了式・学部卒業式	3月 23日 (木)
春 期 休 業	3月 25日 (土)～4月 3日 (月)

履修登録関係日程

受講科目履修登録表提出	4月 18日 (月), 19日 (火)
履修登録確認表配付	4月 28日 (木)
単位修得表配付 (第1学期)	8月 31日 (水)～9月 1日 (木)
第2学期以降の履修登録科目の変更	9月 8日 (木)～9日 (金)
単位修得表配付 (第2学期)	12月 8日 (木)～9日 (金)
第3学期の履修登録科目の変更	12月 12日 (月)～13日 (火)
単位修得表配付 (第3学期)	掲示にて通知

目 次

教育の理念と特色

1 基本理念	1
2 本学の特色	1

工 学 部

I 各課程の学習・教育目標	5
II 卒業要件等	
1 第1年次入学者	
(1) 卒業要件及び履修基準	15
(2) 科目修得基準	16
2 第3年次編入学者	
卒業要件及び履修基準	19
III 履修方法・試験・在学年限等	
1 履修方法	20
2 試験	22
3 在学年限等	23
4 日本技術者教育認定機構 (JABEE) 対応課程	24
5 各種資格の認定	24
6 単位互換制度	25
IV 教育課程	
1 授業科目・単位等	27
2 一般基礎科目	
(1) 一般基礎科目について	28
(2) 第1年次入学者	29
(3) 第3年次編入学者及び進級者	32
3 専門科目	34

工学研究科修士課程

I 修了要件等	
1 修了要件	53
2 学位の申請	53
II 履修方法・試験・在学年限等	
1 履修方法	54
2 試験	54
3 在学年限	55

4	休学	55
5	退学・除籍	55
6	単位互換制度	56

Ⅲ 教育課程

1	授業科目・単位等	57
2	共通科目	58
3	専攻科目	60

工学研究科博士後期課程

I 修了要件等

1	修了要件	71
2	学位の申請	71

II 履修方法・試験・在学年限等

1	履修方法	72
2	試験	72
3	在学年限	72
4	休学	72
5	退学・除籍	72

Ⅲ 教育課程

1	授業科目・単位等	73
2	専攻科目	74

(別添資料)

○	工学部教育課程及び履修方法等に関する規程	81
○	実務訓練の履修に関する規程	86
○	大学院教育課程及び履修方法等に関する規程	88
○	学位規程	91
○	修士の学位審査取扱細則	95
○	博士の学位審査取扱細則	97
○	他の大学・短期大学又は高等専門学校との単位互換協定に基づき 修得した単位の認定等に関する申合せ	100
○	他の大学院との単位互換協定に基づき修得した単位の認定等に関 する申合せ	101

教育の理念と特色

1 基本理念

本学は、豊かな人間性の開花、自然との共生、国際協調的な社会の実現に、技術科学の領域で創造的かつ実践的に貢献できる指導的な技術者・研究者を育成することを、その使命としています。

そのため、本学は大学院に重点を置き、透徹した物を見る眼、繊細で温かみのある感性、多元的な思考能力、グローバルな視野を培う教育を推し進めるとともに、人類の一層の発展を展望しながら、技術科学の新しい地平を切り拓くことを目指して研究に取り組みます。

2 本学の特色

<学部課程から大学院修士課程までの一貫教育>

実践的・創造的な能力を備えた指導的技術者の育成を行うため、学部から大学院修士課程まで同一定員幅の一貫した高度な教育を行っています。

<学際的な課程編成と研究活動>

社会の新しい要請に柔軟に対応しうよう、従来の学科別編成とは異なった学際的な課程編成によって教育研究を行っています。

<新しい構想による大学院博士課程>

各専門分野を複合した学際的な博士後期課程を編成して、先端科学を追求するとともに、産業界や社会のニーズに適応した教育研究を行っています。

<多様な入学制度>

高等専門学校卒業生を第3年次に、高等学校（普通学校、工業高校）卒業生を第1年次に受け入れ、入学者選考にはそれぞれ推薦入学制度を大幅に採用しています。

また、学習歴の異なる入学生に見合ったカリキュラムを用意しています。

<密度の高い少人数教育>

教員定員が大学院教育に合わせて配置されているので、一教員あたりの学生定員は他大学に比べてかなり少なく、充実した少人数教育が行われています。

<幅広い教育課程の編成>

専門教育と並行して、管理科学、計画経営学に関する分野を充実させ、高度な専門知識とともに、総合的判断力、管理能力の養成を図っています。

<正課としての実務訓練>

産業界における実務を体験することにより、社会との密接な接触を通じて、指導的技術者として必要な人間性の陶冶を図り、実践的技術感覚を養います。

<活発な国際交流>

世界の技術科学の進展動向を導入するため、研究、教育両面において国際交流を活発に進めており、外国人教員数や留学生数の割合は全国トップレベルです。

<多様な産学交流と地域社会との協力>

学外機関との交流、民間企業等との共同研究あるいは地域社会との協力事業を推進するとともに、産業

界から客員教員を招へいし、職業人に対してはリフレッシュ教育（特別選抜による受入れ、履修方法等の特例、各種公開講座の開設等）を充実するなど、開かれた大学としての活動を積極的に行っています。

工 学 部

I 各課程の学習・教育目標

機械システム工学課程 学習・教育目標

本課程においては以下の知識および能力を育成することを目標とする。

(A) 幅広い人間性と考え方

本課程で設定された一般基礎Ⅱの科目を修得することにより、人間社会を地球的な視点から多面的にとらえ、自然と人間との共生、人類の幸福・健康・福祉について考える能力

(B) 技術者としての正しい倫理観と社会性

本課程で設定された一般基礎Ⅱ、一般基礎Ⅳの科目を修得することにより、技術者としての専門的・倫理的責任を自覚し、社会における技術的課題を設定・解決・評価する能力

(C) 技術を科学的にとらえるための基礎力とその活用能力

本課程で設定された数学・自然科学・情報技術分野の科目を修得することにより、科学技術に関する基礎知識を獲得し、それらを活用できる能力

(D) 技術を科学する分析力、論理的思考力、デザイン力、実行力

機械工学および機械工学関連分野の専門技術に関する知識を獲得し、それらをものづくりと問題解決に応用できる実践的・創造的能力

(D1) 本課程で設定された専門Ⅱの科目を修得することにより、流体力学、熱力学、固体力学の力学関連分野や計測・制御工学および機械工学関連分野の基礎を理解し、機械システムの設計、製作、性能評価、利用に応用できる能力

(D2) 本課程で設定された「機械システム工学実験」を修得することにより、実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、技術科学的な視点から考察し、説明する能力

(D3) 本課程で設定された「特別研究」、「実務訓練」を修得することにより、技術者が経験する実際上の問題点と課題を理解し、諸問題の工学的な解決を行うためのデザイン力と与えられた制限下で仕事をまとめ上げる実行力

(E) 国内外において活躍できる表現力・コミュニケーション力

本課程で設定された一般基礎Ⅲ、「特別研究」、「実務訓練」の科目を修得することにより、論文、口頭および情報メディアを通じて、自分の論点や考えなどを国の内外において効果的に表現し、コミュニケーションする能力

(F) 最新の技術や社会環境の変化に対する探求心と持続的学習力

本課程で設定された一般基礎Ⅱ、「特別研究」、「実務訓練」の科目を修得することにより、社会、環境、技術等の変化に対応して、生涯にわたって自発的に学習する能力

生産システム工学課程 学習・教育目標

本課程においては以下の知識および能力を育成することを目標とする。

(A) 幅広い人間性と考え方

本課程で設定された一般基礎Ⅱの科目を修得することにより、人間社会を地球的な視点から多面的にとらえ、自然と人間との共生、人類の幸福・健康・福祉について考える能力

(B) 技術者としての正しい倫理観と社会性

本課程で設定された一般基礎Ⅱ，一般基礎Ⅳの科目を修得することにより、技術者としての専門的・倫理的責任を自覚し、社会における技術的課題を設定・解決・評価する能力

(C) 技術を科学的にとらえるための基礎力とその活用力

本課程で設定された数学・自然科学・情報技術分野の科目を修得することにより、科学技術に関する基礎知識を獲得し、それらを活用できる能力

(D) 技術を科学する分析力，論理的思考力，デザイン力，実行力

機械工学を基礎とするものづくりの専門技術に関する知識を獲得し、それらを問題解決に応用できる能力
とものづくりの実践的・創造的能力

(D1) 本課程で設定された「機械工学基礎」，「材料工学」，「生産加工学」，「システム工学」，「応用機械工学」分野の科目を修得することにより，専門的技術を駆使して課題を探求し，組み立て，解決する能力

(D2) 本課程で設定された「生産システム工学基礎実験」，「生産システム工学創造実験」を修得することにより，実験を計画・遂行し，データを正確に解析し，技術科学的な視点から考察し，説明する能力

(D3) 本課程で設定された「生産システム工学研究法基礎」，「生産システム工学卒業研究」，「実務訓練」を修得することにより，技術者が経験する実際上の問題点と課題を理解し，諸問題の工学的な解決を行うためのデザイン力と与えられた制限下で仕事をまとめ上げる実行力

(E) 国内外において活躍できる表現力・コミュニケーション力

本課程で設定された一般基礎Ⅲ，「生産システム工学研究法基礎」，「生産システム工学卒業研究」，「実務訓練」の科目を修得することにより，論文，口頭および情報メディアを通じて，自分の論点や考えなどを国の内外において効果的に表現し，コミュニケーションする能力

(F) 最新の技術や社会環境の変化に対する探求心と持続的学習力

本課程で設定された一般基礎Ⅱ，「生産システム工学研究法基礎」，「生産システム工学卒業研究」，「実務訓練」の科目を修得することにより，社会，環境，技術などの変化に対応して，生涯にわたって自発的に学習する能力

電気・電子工学課程 学習・教育目標

本課程においては以下の知識および能力を育成することを目標とする。

(A) 幅広い人間性と考え方

本課程で設定された一般基礎Ⅱの講義科目を修得することにより、人間社会を地球的な視点から多面的にとらえ、自然と人間との共生、人類の幸福・健康・福祉について考える能力

(B) 技術者としての正しい倫理観と社会性

本課程で設定された一般基礎Ⅱ、一般基礎Ⅳ、「電気・電子工学実験Ⅱ」の科目を修得することにより、技術者としての専門的・倫理的責任を自覚し、社会における技術的課題を設定・解決・評価する能力

(C) 技術を科学的にとらえるための基礎力とその活用力

本課程で設定された数学・自然科学・情報技術分野（専門ⅡA）の講義科目を修得することにより、数理法則と物理原理に関する理論的知識を獲得し、それらを活用できる能力

(D) 技術を科学する分析力、論理的思考力、デザイン力、実行力

電気・電子・情報通信および関連分野の専門技術に関する知識を獲得し、それらをものづくりと問題解決に応用できる実践的・創造的能力

(D1) 本課程で設定された「電気・電子工学実験Ⅰ」、「電気・電子工学実験Ⅱ」を修得することにより、実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、技術科学的な視点から考察し、かつ説明する能力

(D2) 本課程で設定された専門ⅡBの講義科目を修得することにより、専門的技術を駆使して課題を探索し、組み立て、解決する能力

(D3) 本課程で設定された「特別実験」、「実務訓練」を修得することにより、技術者が経験する実際上の問題点と課題を理解し、諸問題の工学的な解決を行うためのデザイン力と与えられた制限下で仕事をまとめ上げる実行力

(E) 国内外において活躍できる表現力・コミュニケーション力

本課程で設定された一般基礎Ⅲ、「特別実験」、「実務訓練」の科目を修得することにより、論文、口頭および情報メディアを通じて、自分の論点や考えなどを国の内外において効果的に表現し、コミュニケーションする能力

(F) 最新の技術や社会環境の変化に対する探求心と持続的学習力

本課程で設定された一般基礎Ⅱ、「特別実験」、「実務訓練」の科目を修得することにより、社会、環境、技術などの変化に対応して、生涯にわたって自発的に学習する能力

情報工学課程 学習・教育目標

本課程においては以下の知識および能力を育成することを目標とする。

(A) 幅広い人間性と考え方

本課程で設定された一般基礎Ⅱの科目を修得することにより、人間社会を地球的な視点から多面的にとらえ、自然と人間との共生、人類の幸福・健康・福祉について考える能力

(B) 技術者としての正しい倫理観と社会性

本課程で設定された一般基礎Ⅱ、一般基礎Ⅳ、「情報工学実験Ⅱ」の科目を修得することにより、技術者としての専門的・倫理的責任を自覚し、社会における技術的課題を設定・解決・評価する能力

(C) 技術を科学的にとらえるための基礎力とその活用力

本課程で設定された数学・自然科学・情報技術分野（専門ⅡA）の科目を修得することにより、数理法則と計算原理・プログラミングに関する理論的・基礎的知識を獲得し、それらを活用できる能力

(D) 技術を科学する分析力、論理的思考力、デザイン力、実行力

情報および情報関連分野の専門技術に関する知識を獲得し、それらを問題解決に応用できる実践的・創造的能力

(D1) 本課程で設定された「情報工学実験Ⅰ」、「情報工学実験Ⅱ」を修得することにより、問題を分析し、解決手順を設計し、ハードウェア・ソフトウェアとして実現する能力

(D2) 本課程で設定された専門ⅡBの科目を修得することにより、次の3分野の基礎を理解し、情報工学分野において多角的な応用と問題解決ができる能力

(i) 新しい計算手段・計算機構を生み出す計算メカニズム

(ii) 多様な情報から新しい価値を生み出す情報処理メカニズム

(iii) 情報ネットワーク社会を構築する情報通信メカニズム

(D3) 本課程で設定された「特別実験」、「実務訓練」を修得することにより、技術者が経験する実際上の問題点と課題を理解し、諸問題の工学的な解決を行うためのデザイン力と与えられた制限下で仕事をまとめ上げる実行力

(E) 国内外において活躍できる表現力・コミュニケーション力

本課程で設定された一般基礎Ⅲ、「特別実験」、「実務訓練」の科目を修得することにより、論文、口頭および情報メディアを通じて、自分の論点や考えなどを国の内外において効果的に表現し、コミュニケーションする能力

(F) 最新の技術や社会環境の変化に対する探求心と持続的学習力

本課程で設定された一般基礎Ⅱ、「特別実験」、「実務訓練」の科目を修得することにより、社会、環境、技術などの変化に対応して、生涯にわたって自発的に学習する能力

物質工学課程 学習・教育目標

本課程においては以下の知識および能力を育成することを目標とする。

(A) 幅広い人間性と考え方

本課程で設定された一般基礎Ⅱの科目を修得することにより、人間社会を地球的な視点から多面的にとらえ、人間と自然との共生、人類の幸福・健康・福祉について考える能力

(B) 技術者としての正しい倫理観と社会性

本課程で設定された一般基礎Ⅱ，一般基礎Ⅳの科目を修得することにより、技術者としての専門的・倫理的責任を自覚し、社会における技術的課題を設定・解決・評価する能力

(C) 技術を科学的にとらえるための基礎力とその活用力

本課程で設定された数学・自然科学・情報技術分野の科目を修得することにより、科学技術に関する基礎知識を獲得し、それらを活用できる能力

(D) 技術を科学する分析力，論理的思考力，デザイン力，実行力

化学および化学関連分野の専門技術に関する知識を獲得し、それらを問題解決に応用できる実践的・創造的能力

(D1) 本課程で設定された化学および化学関連分野の工学基礎に関する科目を修得することにより知識を獲得し、それらを駆使して問題を解決する基礎的能力

(D2) 本課程で設定された化学工学関連の科目を修得することにより、化学工学量論，熱力学，移動現象論などの専門基礎知識を獲得し、それらを駆使して問題を解決する能力

(D3) 本課程で設定された「無機化学」「有機化学」「分析化学」「物理化学」「生化学」を基本科目とする専門Ⅱの科目を修得することにより、物質を原子・分子レベルで理解し、物質を解析・変換・評価できる専門知識と専門技術を獲得し、それらを駆使して課題を探求し、組み立て、解決する能力

(D4) 本課程で設定された「物質工学卒業研究Ⅰ，Ⅱ」，「実務訓練」を修得することにより、技術者が経験する実際上の問題点と課題を理解し、諸問題の工学的な解決を行うためのデザイン力と与えられた制限下で仕事をまとめ上げる実行力

(E) 国内外において活躍できる表現力・コミュニケーション力

本課程で設定された一般基礎Ⅲ，「物質工学卒業研究Ⅰ，Ⅱ」，「実務訓練」の科目を修得することにより、論文，口頭および情報メディアを通じて、自分の論点や考えなどを国の内外において効果的に表現し、コミュニケーションする能力

(F) 最新の技術や社会環境の変化に対する探究心と持続的学習力

本課程で設定された一般基礎Ⅱ，「物質工学卒業研究Ⅰ，Ⅱ」，「実務訓練」の科目を修得することにより、社会，環境，技術等の変化に対応して、生涯にわたって自発的に学習する能力

建設工学課程（建築コース） 学習・教育目標

本コースにおいては、以下の知識および能力を育成することを目標とする。

（A）幅広い人間性と考え方

本コースで設定された一般基礎Ⅱの科目を修得することにより、人間社会を地球的な視点から多面的にとらえ、自然と人間との共生、人類の幸福・健康・福祉について考える能力

（B）技術者としての正しい倫理観と社会性

本コースで設定された一般基礎Ⅱ、一般基礎Ⅳの科目を修得することにより、技術者としての専門的・倫理的責任を自覚し、社会における技術的課題を設定・解決・評価する能力

（C）技術を科学的にとらえるための基礎力とその活用力

本コースで設定された数学・自然科学・情報技術の分野を修得することにより、科学技術に関する基礎知識を獲得し、それらを活用できる能力

（D）技術を科学する分析力、論理的思考力、デザイン力、実行力

建築分野の専門技術に関する知識を修得し、それらを問題解決に応用できる実践的・創造的能力

(D1) 本コースで設定された建設工学の基本となる構造・環境・計画の共通的な講義科目・演習科目を修得することにより、建設技術に関する論理的知識を獲得し、それらを活用できる能力

(D2) 本コースで設定された建設工学の専門性の高い講義科目・演習科目を修得することにより、高度な専門的技術を身につけ、それを問題解決に応用する能力

(D3) 本コースで設定された「建設設計演習」、「空間情報設計演習」、「建設工学実験」の科目を修得することにより、専門的技術を総合的に用いて課題を探究し、創造性、記述力、発表力、コミュニケーション力を発揮して、その課題を解決する能力

(D4) 本コースで設定された「建設工学特別演習」、「実務訓練」を修得・体得することにより、実際上の諸問題を探究し、社会の要求する課題を与えられた条件下で工学的に解決するための具体的な技術（企画・設計・生産・管理等）、デザイン力、調整力、協調性など、仕事をまとめ上げる実実行力

（E）国内外において活躍できる表現力・コミュニケーション力

本コースで設定された一般基礎Ⅲ、「建設工学特別演習」、「実務訓練」の科目を修得することにより、論文、口頭および情報メディアを通じて、自分の論点や考えなどを国の内外において効果的に表現し、議論や交渉などのコミュニケーションする能力

（F）最新の技術や社会環境の変化に対する探求心と持続的学習力

本コースで設定された一般基礎Ⅲ、「建設工学特別演習」、「実務訓練」の科目を修得することにより、社会、環境、技術等の変化に対応して、生涯にわたって自発的に学習する能力

建設工学課程（社会基盤コース） 学習・教育目標

本コースにおいては以下の知識および能力を育成することを目標とする。

（A）幅広い人間性と考え方

本コースで設定された一般基礎Ⅱの科目を修得することにより、人間社会を地球的な視点から多面的にとらえ、自然と人間との共生、人類の幸福・健康・福祉について考える能力

（B）技術者としての正しい倫理観と社会性

本コースで設定された一般基礎Ⅱ，一般基礎Ⅳの科目を修得することにより、技術者としての専門的・倫理的責任を自覚し、社会における技術的課題を設定・解決・評価する能力

（C）技術を科学的にとらえるための基礎力とその活用力

本コースで設定された数学・自然科学・情報技術分野の講義科目を修得することにより、科学技術に関する基礎知識を獲得し、それらを活用できる能力

（D）技術を科学する分析力，論理的思考力，デザイン力，実行力

社会基盤分野の専門技術に関する知識を獲得し、それらを問題解決に応用できる実践的・創造的能力

①1) 本コースで設定された建設工学の基本となる構造・環境・計画の3分野の専門Ⅰ及び専門Ⅱの講義科目を修得することにより、社会基盤分野のみならず、関連する都市・地域・建築分野における基礎的かつ高度な専門的技術を身につけ、それらを社会基盤分野にかかわる問題の理解や解決に応用する能力

②2) 本コースで設定された「建設工学実験」，「測量学Ⅱ・同演習」を修得することにより、実験・観測を計画・遂行し、データを正確に解析し、技術科学的な視点から考察し、説明する能力

③3) 本コースで設定された演習科目を修得することにより、自己学習の習慣を身につけ、問題の解決策を創造する能力、および問題を解決する能力

④4) 本コースで設定された「建設設計演習」，「空間情報設計演習」，「建設工学特別演習」を修得することにより、社会基盤分野の専門的技術を総合的に用いて、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力

⑤5) 本コースで設定された「建設工学特別演習」，「実務訓練」を修得することにより、技術者が経験する社会基盤にかかわる実際上の問題点と課題を理解し、諸問題の工学的な解決を行うための創造的なデザイン力と計画技術を用いて与えられた制限下で仕事をまとめ上げる実行力

（E）国内外において活躍できる表現力・コミュニケーション力

本コースで設定された一般基礎Ⅲ，「建設工学特別演習」，「実務訓練」の科目を修得することにより、論文、口頭および情報メディアを通じて、自分の論点や考えなどを国内外において効果的に表現し、コミュニケーションする能力

（F）最新の技術や社会環境の変化に対する探求心と持続的学習力

本コースで設定された一般基礎Ⅱ，「建設工学特別演習」，「実務訓練」の科目を修得することにより、社会、環境、技術等の変化に対応して、生涯にわたって自発的に学習する能力

知識情報工学課程 学習・教育目標

本課程においては、以下の知識および能力を育成することを目標とする。

(A) 幅広い人間性と考え方

本課程で設定された一般基礎Ⅱの科目を修得することにより、人間社会を地球的な視点から多面的にとらえ、自然と人間との共生、人類の幸福・健康・福祉について考える能力

(B) 技術者としての正しい倫理観と社会性

本課程で設定された一般基礎Ⅱ、一般基礎Ⅳの科目を修得することにより、技術者としての専門的・倫理的責任を自覚し、社会における技術的課題を設定・解決・評価する能力

(C) 技術を科学的にとらえるための基礎力とその活用力

本課程で設定された数学・自然科学・情報技術分野の科目を修得することにより、科学技術に関する理論的、基礎的知識を獲得し、それらを活用できる能力

(D) 技術を科学する分析力、論理的思考力、デザイン力、実行力

情報および情報関連分野を基礎とするソフトウェアの専門技術に関する知識を獲得し、それらを様々な分野における問題解決に応用できる実践的・創造的能力

(D1) 本課程で設定された情報専門分野、および、「知能情報学」、「マルチメディア情報工学」、「生体情報工学」、「分子情報工学」、「分子設計工学」等の応用分野の科目を修得することにより、専門的技術を駆使して課題を探求し、組み立て、解決する能力

(D2) 本課程で設定された「知識情報工学実験」、「プログラミング」を修得することにより、実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、技術科学的な視点から考察し、説明する能力、および、様々な分野におけるソフトウェアを設計、開発し、評価する能力

(D3) 本課程で設定された「特別研究」、「実務訓練」を修得することにより、技術者が経験する実際上の問題点と課題を理解し、諸問題の工学的な解決を行うためのデザイン力と与えられた制約の下で、計画的に仕事を進め、まとめあげる実行力

(E) 国内外において活躍できる表現力・コミュニケーション力

本課程で設定された一般基礎Ⅲ、「特別研究」、「実務訓練」の科目を修得することにより、論文、口頭および情報メディアを通じて、自分の論点や考えなどを国の内外において効果的に表現し、コミュニケーションする能力

(F) 最新の技術や社会環境の変化に対する探求心と持続的学習力

本課程で設定された一般基礎Ⅱ、「特別研究」、「実務訓練」の科目を修得することにより、社会、環境、技術などの変化に対応して、生涯にわたって自発的に学習する能力

エコロジー工学課程 学習・教育目標

本課程においては以下の知識および能力を育成することを目標とする。

(A) 幅広い人間性と考え方

本課程で設定された一般基礎Ⅱの科目を修得することにより、人間社会を地球的な視点から多面的にとらえ、人間と自然との共生、人類の幸福・健康・福祉について考える能力

(B) 技術者としての正しい倫理観と社会性

本課程で設定された一般基礎Ⅱ、一般基礎Ⅳの科目を修得することにより、技術者としての専門的・倫理的責任を自覚し、社会における技術的課題を設定・解決・評価する能力

(C) 技術を科学的にとらえるための基礎力とその活用力

本課程で設定された数学・自然科学・情報技術分野の講義科目を修得することにより、科学技術に関する基礎知識を獲得し、それらを活用できる能力

(D) 技術を科学する分析力、論理的思考力、デザイン力、実行力

エコロジー工学およびエコロジー工学関連分野の専門技術に関する知識を獲得し、それらを問題解決に応用できる実践的・創造的能力

(D1) 本課程で設定された数学、物理、化学、生物を基本科目とする専門Ⅱの科目を修得することにより、物質生産および廃棄物処理プロセスを総合的に理解し、物質を解析・変換・評価できる科学技術の知識を獲得し、それらを駆使して課題を探求し、組み立て、解決する能力

(D2) 本課程で設定された「エコロジー工学実験」を修得することにより、実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、技術科学的視点から考察し、説明する能力

(D3) 本課程で設定された「エコロジー工学特別演習」、「エコロジー工学卒業研究」、「実務訓練」を修得することにより、技術者が経験する実際上の問題点と課題を理解し、諸問題の工学的な解決を行うためのデザイン能力と与えられた制限下で仕事をまとめ上げる実行力

(E) 国内外において活躍できる表現力・コミュニケーション力

本課程で設定された一般基礎Ⅲ、「エコロジー工学特別演習」、「エコロジー工学英語Ⅲ」、「エコロジー工学卒業研究」、「実務訓練」の科目を修得することにより、論文、口頭および情報メディアを通じて、国内外において効果的に表現し、コミュニケーションする能力

(F) 最新の技術や社会環境の変化に対する探究心と持続的学習力

本課程で設定された一般基礎Ⅱ、「エコロジー工学特別演習」、「エコロジー工学卒業研究」、「実務訓練」の科目を修得することにより、社会、環境、技術などの変化に対応して、生涯にわたって自発的に学習する能力

Ⅱ 卒業要件等

1 第1年次入学者

(1) 卒業要件及び履修基準

学部卒業に必要な最低修得単位数等については、以下のとおり定めている。

区 分	単位数	履 修 基 準	
一 般 基 礎 科 目	一般基礎Ⅰ	16	(1) 数学Ⅰ、数学Ⅱ、物理学Ⅰ及び化学Ⅰを修得しなければならない。 (2) さらに、課程ごとに指定された次の授業科目を修得しなければならない。 <機械システム工学課程> 物理実験、数学ⅢA及び数学ⅢB <生産システム工学課程> 物理実験、化学実験、物理学Ⅱ及び数学ⅢB <電気・電子工学課程> 物理実験 <情報工学課程> 物理実験又は化学実験 <物質工学課程> 物理実験又は化学実験 <建設工学課程> 物理実験又は化学実験 <知識情報工学課程> 指定科目なし <エコロジール工学課程> 物理実験又は化学実験
	一般基礎Ⅱ	18	(1) 保健体育理論、保健体育実技Ⅰ及び保健体育実技Ⅱを修得しなければならない。 (2) 選択Ⅰ及び選択Ⅱの中からそれぞれ2科目以上修得しなければならない。 (3) 選択Ⅲは、外国人留学生のみ修得することができる。ただし、修得した単位の内9単位を限度として卒業要件単位に算入できる。 (4) 授業科目の単位認定は、原則として学期制とする。
	一般基礎Ⅲ	10	(1) 1つの外国語について8単位以上修得しなければならない。 (2) 上記の他、英語、ドイツ語、フランス語及び中国語の中から一つの外国語を選択し、2単位を修得しなければならない。
	一般基礎Ⅳ	6	(1) 技術者倫理を修得しなければならない。 (2) 選択Ⅰの出身別対象科目の中から2科目以上3単位以上を修得しなければならない。 (3) 選択Ⅱの中から2科目以上2単位以上を修得しなければならない。
小 計	50		
専 門 科 目	専 門 Ⅰ	30	(1) 卒業要件にかかる単位修得方法等の詳細については、各課程の基準による。 <建設工学課程> 選択必修科目において、3分野からそれぞれ0.5単位、合計1.5単位を修得することに基づき、当該原則として、教育課程及び授業時間割に基づき当該年次に開講される科目を履修しなければならない。ラソ担任(又は指導教員)の許可を受けた上、授業担当教員の許可を必要とする。 (2) 他課程を開講科目(実験・実習科目を除く。)を履修できるが、履修にあたってはクラス担任(又は指導教員)の許可を受けた上、授業担当教員の許可を必要とする。
	専 門 Ⅱ	50	
小 計	80		
合 計	130		

○ 各課程の卒業要件は、JABEE基準に対応している。(24頁参照)

(2) 科目修得基準

第2年次末において、修得した科目及び単位数が以下に掲げる各課程の修得基準に達しない場合は、第3年次へ進級することができない。

①機械システム工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎 I	数学 I, 数学 II, 物理学 I, 化学 I, 物理実験	11	
一般基礎 I 一般基礎 II 一般基礎 III 一般基礎 IV	上記以外の一般基礎科目の内	9	
専 門 I	必 修 科 目	8	
	選 択 I・選 択 II の 内	16	
合 計		44	

②生産システム工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎 I 一般基礎 II 一般基礎 III 一般基礎 IV	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 I	必 修 科 目	8	
	選 択 I・選 択 II の 内	16	
合 計		44	

③電気・電子工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎 I 一般基礎 II 一般基礎 III 一般基礎 IV	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 I	電気・電子工学基礎実験	3	
	上記以外の必修科目の内	13	
	選 択 科 目 の 内	7	
合 計		43	

④情報工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎Ⅰ 一般基礎Ⅱ 一般基礎Ⅲ 一般基礎Ⅳ	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 Ⅰ	情報工学基礎実験 上記以外の必修科目の内 選択科目の内	3 13 7	
合 計		43	

⑤物質工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎Ⅰ 一般基礎Ⅱ 一般基礎Ⅲ 一般基礎Ⅳ	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 Ⅰ	物質工学基礎実験Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ 上記以外の必修科目の内	6 14	
合 計		40	

⑥建設工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎Ⅰ 一般基礎Ⅱ 一般基礎Ⅲ 一般基礎Ⅳ	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 Ⅰ	建設設計演習Ⅰ 上記以外の必修科目及び 選択必修科目の内	3 14	
合 計		37	

⑦知識情報工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎Ⅰ 一般基礎Ⅱ 一般基礎Ⅲ 一般基礎Ⅳ	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 Ⅰ	必 修 科 目	14	
	選 択 科 目 の 内	8	
合 計		42	

⑧エコロジー工学課程

区 分	授 業 科 目	単位数	備 考
一般基礎Ⅰ 一般基礎Ⅱ 一般基礎Ⅲ 一般基礎Ⅳ	一般基礎科目の開講科目の内	20	
専 門 Ⅰ	必 修 科 目 の 内	7	
	選 択 科 目 の 内	13	
合 計		40	

2 第3年次編入学者 卒業要件及び履修基準

学部卒業に必要な最低修得単位数等については、以下のとおり定めている。

区 分		単位数	履 修 基 準
一 般 基 礎 科 目	一般基礎Ⅱ	8	(1) 選択Ⅰ及び選択Ⅱの中からそれぞれ1科目以上修得しなければならない。 (2) 選択Ⅲは、外国人留学生のみ修得することができる。ただし、修得した単位の内4単位を限度として卒業要件単位に算入できる。 (3) 授業科目の単位認定は、原則として学期制とする。
	一般基礎Ⅲ	4	(1) 英語を2単位以上修得しなければならない。 (2) 上記の他、英語、ドイツ語、フランス語及び中国語の中から一つの外国語を選択し、2単位を修得しなければならない。 (3) 第1年次及び第2年次に開講されている授業科目は履修できるが、修得した単位は卒業要件単位に算入しない。
	一般基礎Ⅳ	3	(1) 技術者倫理を修得しなければならない。 (2) 選択Ⅱの中から2科目以上2単位以上を修得しなければならない。
小 計		15	
専 門 科 目	専 門 Ⅱ	50	(1) 卒業要件にかかる単位修得方法等の詳細については、各課程の基準による。 (2) 原則として、教育課程及び授業時間割に基づき当該年次に開講される科目を履修しなければならない。 所属課程の上級年次の科目を履修する場合はクラス担任（又は指導教員）の許可を受けたうえ、授業担当教員の許可を必要とする。 (3) 他課程開講科目（実験・実習科目を除く。）を履修できるが、履修にあたってはクラス担任（又は指導教員）の許可を受けた上、授業担当教員の許可を必要とする。
合 計		65	

○ 各課程の卒業要件は、JABEE基準に対応している。（24頁参照）

Ⅲ 履修方法・試験・在学年限等

1 履修方法

授業科目は、在学年次及び在学課程の教育課程に従って履修すること。

なお、第1年次入学者が第3年次進級後に履修する授業科目及びその単位数は、第3年次進級時における当該課程の教育課程に従うこと。（「Ⅳ 教育課程」参照）

(1) 履修計画

履修計画は、本書をよく読み、年度始めに行われるガイダンスや教員の指導・助言をもとに、授業時間割表により余裕をもって立てること。

なお、選択科目は、都合により開講されない場合があるので、十分注意すること。

- 1 授業時間割表については、各学年の始めに配付する。
なお、集中講義科目については開講時期等が決定次第、掲示等により通知する。
- 2 履修に関する連絡は、学年の始め及び学期の始めに集中するので、見落とさないように注意すること。

(2) 履修登録

履修しようとする授業科目は、「受講科目履修登録表」により、学年の始めの所定の期日までに開講時期等が未確定の集中講義科目を含めてすべて履修登録しなければならない。

履修登録していない授業科目の単位認定は、一切認められない。

なお、各学期の始めの履修登録変更期間に、その学期以降の授業科目について履修変更することができる。

- 1 他課程又は上級年次の授業科目を履修しようとする場合は、「他課程（専攻）科目受講許可願」又は「上級年次科目履修許可願」によりクラス担任（又は指導教員）及び授業担当教員の許可を受けた上で履修登録すること。
- 2 履修登録したにもかかわらず、授業や試験を受けない場合は、その授業科目は不合格とする。ただし、履修登録の取り消しをした場合はこの限りでない。
- 3 単位を修得した授業科目は、再度履修登録できない。
- 4 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修できない。重複して履修登録した場合、両方の科目が登録されないので注意すること。ただし、試験等による再履修科目及び集中講義科目については、この限りでない。

(3) 履修登録の確認及び訂正

履修登録の確認は、「履修登録確認表」（年度初めに各自に一度しか配付しない）により行うこと。記載された内容に間違いがある場合は、1学期の履修登録変更期間に訂正の手続きを必ず行うこと。

(4) 再履修

定期試験等で不合格となった授業科目のうち、修得を必要とする授業科目は、原則として次年度に再履修すること。（英語についても当該クラスを再履修すること）

なお、再履修しようとする授業科目についても、履修登録すること。

(5) 試験等による再履修

再履修の場合で、授業科目担当教員が、試験等により単位認定すると認めた場合に限り、「試験等による再履修願」により授業科目担当教員の許可を受けた上で履修登録すること。

(6) 実務訓練の履修

各課程とも、実務訓練6単位（専門Ⅱ）の履修が必要である。

この科目については、第4年次学生を対象に詳細なガイダンスが実施され、指導教員の助言のもとに履修方法を決定する。

入学した諸君が大学での勉学を始めるに当たって最初に必要となることは、履修要覧をよく理解し、授業時間割表を見て履修計画を立てることです。

本学の授業科目は、卒業要件等（「Ⅱ 卒業要件等」参照）にあるように、一般基礎科目と専門科目に分類されます。

一般基礎科目は、各課程に共通する学術の基礎となる授業科目であり、これらは今後大学で学修するに当たり基礎となるだけでなく、卒業後も社会人として、技術者として活躍するためには欠かせない基礎的素養となるものです。専門科目は、各工学課程の特色ある内容を学修しますが、一般基礎科目の内容を基本に学修が展開されることが多く、さらには専門Ⅰを学修したのち、これを基礎にして専門Ⅱを学修することになります。

各課程ごとの履修ガイダンス及びクラス担任（又は指導教員）の助言等を参考にし、授業科目の連続性等を考慮して適切な学修計画を立て、調和のとれた履修計画を立ててください。

2 試験

試験には、定期試験、追試験及び再試験がある。

(1) 定期試験

定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて実施する。ただし、授業科目担当教員が必要と認めた場合は、随時に試験が行われる。

なお、定期試験の実施期間及び試験時間割等は、その都度掲示等で通知する。

(2) 追試験

ア 追試験は、学生が次の理由により、当該授業科目の定期試験を受けることができなかった場合に限り、「追試験受験許可願」に授業科目担当教員等の許可を受けた上で、受験することができる。

- ① 病気（医師の診断書を添付）のとき
- ② 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

イ 「追試験受験許可願」は、定期試験最終日の翌日から数えて1週間以内に学務課へ提出しなければならない。

ウ 追試験を受験できなかった場合、再度の追試験は実施しない。

(3) 再試験

再試験は、第4年次未定期試験等の結果、2科目5単位以内の不合格科目が合格することで卒業資格を得ることができる場合に限り、次の科目について再試験を受験することができる。

- ① 第3年次通年開講の専門科目（実験、実習科目を除く。）
- ② 第3年次第3学期開講の専門科目（実験、実習科目を除く。）
- ③ 第4年次開講の専門科目（実験、実習科目を除く。）

(4) 単位の認定及び成績評価

授業科目の単位認定は、試験等により授業科目担当教員が行う。

- ① 成績の評価は次の基準によって行い、A、B及びCを合格、Dを不合格とし、C以上の評価を得た場合に単位を認定する。

- A・・・80点以上
- B・・・65点以上80点未満
- C・・・55点以上65点未満
- D・・・55点未満

- ② 単位認定された成績は、各学期終了後、学務課から「単位修得表」により通知する。（配付日は、表紙裏面の履修登録関係日程を参照。）

定期試験等において不正行為を行った場合は、当該定期試験におけるすべての試験科目を無効とした上で、その状況を考慮して、訓告、停学又は退学いずれかの懲戒処分が行われるので、不正行為は絶対に行わないこと。

3 在学年限等

第1年次入学者及び第3年次編入学者に係る在学年限等については、以下のとおり定めている。

(1) 在学年限

修業年限を超えて在学できる年限については、以下のとおり定めている。

- ① 第1年次入学者については、8年を超えて在学することができない。
ただし、第1年次及び第2年次を通算した期間にあっては4年、第3年次及び第4年次を通算した期間にあっては4年とする。
- ② 第3年次編入学者については、4年を超えて在学することができない。

(2) 休学

疾病その他特別の理由により、引き続き2か月以上修学することができない場合は、所定の「休学願」をクラス担任（又は指導教員）及び所属系長を経由して、原則として休学をしようとする月の前々月の末日までに学務課へ提出し、学長の許可を得て休学することができる（通算して2年以内）。

休学期間は、前記「(1) 在学年限」に算入しない。

なお、休学期間が満了となり、復学する場合は、「復学届」を提出しなければならない。

また、休学事由の消滅により、休学期間中に復学しようとする場合は、「復学願」を提出し、原則として復学をしようとする月の前々月の末日までに学務課へ提出し、学長の許可を受けなければならない。

(3) 留年

第2年次末において、既に修得した科目及び単位数が各課程の定める「科目修得基準」（16頁参照）に達しない場合は、第3年次へ進級することができない。

(4) 退学

退学しようとする者は、所定の「退学願」をクラス担任（又は指導教員）及び所属系長を経由して、退学をしようとする月の前月の末日までに学務課へ提出し、学長の許可を得なければならない。

(5) 除籍

次の各号の一に該当する場合は、除籍する。

- ① 前記「(1) 在学年限」に定める期間を超えた者
- ② 前記「(2) 休学」に定める期間を超えて、なお修学できない者
- ③ 死亡又は行方不明の者
- ④ 入学料の免除又は徴収猶予を申請した者のうち、免除若しくは徴収猶予が不許可になった者又は半額免除若しくは徴収猶予が許可になった者で、所定の期日までに入学料を納付しない者
- ⑤ 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

4 日本技術者教育認定機構（JABEE）対応課程

次の課程に所属する者で、所定の科目を履修・修得し、卒業した者には、各々の技術者教育プログラムを修了したものと認定される。

- (1) 平成16年度申請の課程（注1）
 - ・ 生産システム工学課程
- (2) 平成17年度以降認定予定の課程
 - ・ 機械システム工学課程
 - ・ 電気・電子工学課程
 - ・ 情報工学課程
 - ・ 物質工学課程
 - ・ 建設工学課程（注2）
 - ・ 知識情報工学課程
 - ・ エコロジー工学課程

※（注1）17年度6月頃に認定予定である。

（注2）建設工学課程には建築コースと社会基盤コースの2コースがあり、第3年次第3学期までに学生各自の希望を考慮していずれかのコースに配属される予定である。

日本技術者教育認定機構のホームページ <http://www.jabee.org/>

5 各種資格の認定

電気・電子工学課程及び建設工学課程に所属する者で、所定の科目を履修し、修得した者には、以下に示す資格が認定される。

① 電気主任技術者（電気・電子工学課程）

所定の科目を修得し、本学電気・電子工学課程を卒業した後、「電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令」に定められた実務経験を有した者には電気主任技術者の資格が認定される。

なお、その詳細については、電気・電子工学課程の指導によること。

② 測量士補、測量士（建設工学課程）

次の科目を修得し、本学建設工学課程を卒業した者には測量士補、さらにこれに加えて測量に関し1年以上の実務経験を有した者には測量士となる資格が認定される。

ア 第1年次入学者

「測量学Ⅰ・同実習」及び「測量学Ⅱ・同演習」

イ 第3年次編入学者（高専等の土木関係学科出身者）

「測量学Ⅱ・同演習」

ウ 第3年次編入学者（上記以外の学生）

「測量学Ⅰ・同実習」及び「測量学Ⅱ・同演習」

③ 一級建築士（建設工学課程）

本学建設工学課程を卒業した後、建築に関して2年以上の実務経験を有した者には、一級建築士試験の受験資格が認定される。

6. 単位互換制度

本学では、多様な授業を受けられるよう他大学と単位互換に関する協定を結びました。単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。受講には手続きが必要ですので、その都度、掲示等でお知らせします。

	愛知県の国公立大学との単位互換	愛知大学との単位互換	eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換
目的・趣旨	愛知県内の国公立大学において、単位互換に関する包括協定が締結されています。	両大学の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として単位互換に関する協定が締結されています。	相互の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として（eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育）単位互換に関する協定が締結されています。
対象大学等	[国立大学] 名古屋大学他2大学、 [公立大学] 愛知県立大学他3大学 [私立大学] 愛知大学他36大学	愛知大学	[国立大学] 長岡技術科学大学、九州工業大学、北陸先端科学技術大学院大学 [国立工業高専] 仙台電波、群馬、岐阜 豊田、鈴鹿、新居浜
学生の身分	特別聴講学生		
授業料等	無 料		
開講科目	出願期間前に「開講科目一覧表」配付		
出願期間	掲示で周知する		
卒業単位としての上限	6単位を超えないものとする。		

IV 教育課程

1 授業科目・単位等

(1) 授業科目

授業科目は、大きく一般基礎科目と専門科目に分かれている。

一般基礎科目は、一般基礎Ⅰ、一般基礎Ⅱ、一般基礎Ⅲ及び一般基礎Ⅳに、専門科目は専門Ⅰ及び専門Ⅱに区分され、それぞれの科目ごとに単位を定めている。

開講授業科目については、次頁以降の一般基礎科目及び専門科目を参照すること。

なお、授業科目の内容については、別冊「授業紹介」を参照すること。

(2) 必修科目、選択必修科目及び選択科目

- ① 必修科目は、必ず履修して単位を修得しなければならない科目である。
- ② 選択必修科目は、指定された複数の科目群の中から選択して履修し、決められた科目数又は単位数以上を修得しなければならない科目である。
- ③ 選択科目は、開講されている科目の中から選択して履修し、単位を修得する科目である。

(3) 単位の計算方法

授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれか、又はこれらの併用により行われるが、1単位の履修時間は、次の基準により計算する。

- ① 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

(4) 授業期間

授業期間は、学年暦（表紙裏面参照）によって定めており、第1学期、第2学期及び第3学期の3学期から成っている。

〔一般基礎科目及び専門科目の開講学年・学期〕

1年次			2年次			3年次			4年次		
1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
一般基礎			一般基礎			一般基礎			一般基礎		実務訓練
						専門Ⅱ			専門Ⅱ		
専門Ⅰ			専門Ⅰ								

2 一般基礎科目

(1) 一般基礎科目について

本学の教育課程は、一般基礎科目と専門科目を並行実施する「くさび形」になっています。それは専門教育と一般基礎教育が一体となることによって「実践的・創造的な能力を備えた指導的技術者・研究者の育成」という本学の教育目的が達成できると考えているからです。それは専門の領域において優れているだけでなく、「人間性の開花，自然との共生，国際協調的な社会の実現」に技術者・工学者として貢献できる人材ということです。

一般基礎科目は自然科学の分野と人文・社会の分野に大別できます。前者は工学の基礎となる科目で，1，2年次の学生を対象としています。後者は豊かな素養と人間的な感性を身に付け，それによって人間の社会的営みの中における工学の位置づけ，役割を的確に認識し，柔軟で人間的な発想をすることのできる人材の育成をめざしています。それには「透徹したものを見る目，繊細で温かみのある感性，多角的な思考能力，グローバルな視野」を備えていなければなりません。それは技術／工学の内部では解答の得られない課題であり，まさに一般基礎科目が担うところであります。

この一般基礎科目の目的を達成するために目標としていることを以下に紹介しますので，これをよく理解し，「授業紹介」を参照して履修計画を立ててください。

・ 全般的な目標

課題・問題を発見し，それを解決する能力を身につける。

・ 数学・自然の分野の目標

数学・自然科学的な思考方法・探求手法の基礎を学習し，同時に専門を学ぶ上での基礎を固めるとともに論理構成力を高め，実験を企画し実行する力や工作能力を身につける。数学・自然科学の知識の工学的応用を理解する。工学の多種領域に対しても関心と理解を得る。

・ 外国語科目の目標

世界から情報を得，世界へ発信し，海外でも活躍するための手段としての外国語を身につけるとともに，文化の多様性の目を養い，自己及び日本を世界に位置づけて見るために必要な国際的な視野を涵養する。

・ 人文・社会・保健体育の分野の目標

社会人として社会の動向に対応し，自立した判断を下すことができるよう社会経済の基礎知識を習得する。文化的，芸術的感性を磨き，スポーツに親しみ，個人として心身共に健康で豊かな人生を送ることができるような素養と知識を得る。

(2) 第1年次入学者

① 一般基礎Ⅰ

必・選の別	授業科目	単位数	講時数						備考
			1年次			2年次			
			1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	
必修	数学Ⅰ	3	4						
	数学Ⅱ	3	4						
	物理学Ⅰ	2	2						
	化学Ⅰ	2	2						
選択	物理実験	1						3	<p>課程ごとに指定された次の授業科目を修得しなければならない。</p> <p><機械システム> 物理実験、数学ⅢA及び数学ⅢB</p> <p><生産システム> 物理実験、化学実験、数学ⅢB及び物理学Ⅱ</p> <p><電気・電子> 物理実験</p> <p><情報> 物理実験又は化学実験</p> <p><物質> 物理実験又は化学実験</p> <p><建設> 物理実験又は化学実験</p> <p><知識情報> 指定科目なし</p> <p><エコロジー> 物理実験又は化学実験</p>
	化学実験	1						3	
	数学ⅢA	1.5			2				
	数学ⅢB	1.5			2				
	物理学Ⅱ	2		2					
	物理学Ⅲ	2			2				
	物理学Ⅳ	2						2	
	化学Ⅱ	2			2				
	化学Ⅲ	2						2	
	生物学	2						2	
	地学	2						2	

② 一般基礎Ⅱ

必・選の別	授業科目	単位数	講時数						備考
			1年次			2年次			
			1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	
必修	保健体育理論	2	1	1					
	保健体育実技Ⅰ	1	3						
	保健体育実技Ⅱ	1				3			
選択Ⅰ	国語・国文学	3	1	1	1				<p>選択Ⅰの中から2科目以上修得しなければならない</p> <p>選択Ⅰは主として人文科学の分野の科目(群)から構成されている</p>
	史学Ⅰ-A	3				1	1	1	
	史学Ⅰ-B	3				1	1	1	
	史学Ⅰ-C	3	1	1	1	(1)	(1)	(1)	
	社会思想史	3				1	1	1	
	史学Ⅱ	3	1	1	1				
	史学Ⅲ	3				1	1	1	
	国文学	3	1	1	1	(1)	(1)	(1)	
	心理学	3				1	1	1	
	アメリカ史	3				1	1	1	
	東洋思想史	3				1	1	1	
	人文地理	3	1	1	1				
	日本語学	3				1	1	1	
	西洋の思想と文化	3	1	1	1				
	臨床心理学Ⅰ	1	1						
	臨床心理学Ⅱ	1			1				
※比較技術の文明論	2	放送大学開講科目							
※社会福祉入門	2	放送大学開講科目							

※の科目は、放送大学において開講する科目である。この科目を放送大学において修得した場合、本学において、修得したものとみなし単位認定する。

② 一般基礎Ⅱ

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
			1 年 次			2 年 次			
			1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	
選択Ⅱ	社会科学概論	3				1	1	1	選択Ⅱの中から2科目以上修得 しなければならない 選択Ⅱは主として社会科学の分野の 科目(群)から構成されている
	社会工学計画	3				1	1	1	
	統計学概論	3	1	1	1				
	法学	3				1	1	1	
	ミクロ経済学	2				1	1		
	マクロ経済学	2				1	1		
	経営学概論	2	1	1		(1)	(1)		
	地域経済分析	2				1	1		
	現代産業論	1						1	
	社会と環境	2				1	1		
	社会調査論	2				1	1		
	開発計画論	1	集中講義						
選択Ⅲ	日本語Ⅰ	3	2	2	2				
	日本語Ⅱ	3				2	2	2	

③ 一般基礎Ⅲ

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
			1 年 次			2 年 次			
			1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	
選 択	英語Ⅰ	3	2	2	2				
	英語Ⅱ	3				2	2	2	
	検定英語Ⅰ(a)	2							
	検定英語Ⅰ(b)	2							
	ドイツ語Ⅱ	3				2	2	2	
	フランス語Ⅱ	1.5				1	1	1	

(注) 検定英語Ⅰ(a)、検定英語Ⅰ(b)は、4年次までに英語検定試験(TOEIC、TOEFL等)で必要な成績を修めた場合、単位認定する。

④ 一般基礎Ⅳ

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
			1 年 次			2 年 次			
			1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	
選 択 Ⅰ	工学概論	3	3						普通高校 出身者及 帰国子女 対象 工業高校 出身者対象 工業高校 出身者及 び外国人 留学生対象 工業高校 出身者対象 外国人留 学生対象 選択Ⅰの出身別対象科目の中 から2科目以上、3単位以上 を第4年次までに修得しなけ ればならない。
	工作実習	1	3						
	英語基礎Ⅰ	1	2						
	英語演習	0.5	1						
	数学基礎Ⅰ	1	1						
	数学基礎Ⅱ	1.5	2						
	工学基礎Ⅰ	1	1						
	工学基礎Ⅱ	2	4						

(3) 第3年次編入学者及び進級者

① 一般基礎Ⅱ

必・選の別	授業科目	単位数	講時数						備考
			3年次			4年次			
			1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	
選択Ⅰ	国語・国文学	3	1	1	1				選択Ⅰの中から1科目以上修得しなければならない 選択Ⅰは主として人文科学の分野の科目(群)から構成されている。 進学者は、第1・2年次と通算して選択Ⅰの中から3科目以上を修得しなければならない。
	史学Ⅰ-A	3	1	1	1				
	史学Ⅰ-B	3	1	1	1				
	史学Ⅰ-C	3	1	1	1				
	社会思想史	3	1	1	1				
	史学Ⅱ	3	1	1	1				
	史学Ⅲ	3	1	1	1				
	国文学	3	1	1	1				
	心理学	3	1	1	1				
	アメリカ史	3	1	1	1				
	東洋思想史	3	1	1	1				
	人文地理	3	1	1	1				
	日本語学	3	1	1	1				
	西洋の思想と文化	3	1	1	1				
	人体生理学	2	1	1					
	臨床心理学Ⅰ	1	1						
	臨床心理学Ⅱ	1			1				
	※比較技術の文明論	2	放送大学開講科目						
※社会福祉入門	2	放送大学開講科目							
保健体育実技Ⅲ	1	3						卒業要件単位数に算入しない。	
選択Ⅱ	社会科学概論	3	1	1	1				選択Ⅱの中から1科目以上修得しなければならない 選択Ⅱは主として社会科学の分野の科目(群)から構成されている 進学者は、第1・2年次と通算して選択Ⅰの中から3科目以上を修得しなければならない。
	社会工学計画	3	1	1	1				
	統計学概論	3	1	1	1				
	法学	3	1	1	1				
	ミクロ経済学	2	1	1					
	マクロ経済学	2	1	1					
	経営学概論	2	1	1					
	地域経済分析	2	1	1					
	現代産業論	1			1				
	社会と環境	2	1	1					
	社会調査論	2	1	1					
	開発計画論	1	集中講義						
	起業家育成	1		1					
選択Ⅲ	日本語Ⅱ	3	2	2	2				
	日本語Ⅲ	1.5	1	1	1	(1)	(1)	(1)	
	日本語Ⅳ	1.5	1	2	1	(1)	(1)	(1)	

※の科目は、放送大学において開講する科目である。この科目を放送大学において修得した場合、本学において、修得したものとみなし単位認定する。

② 一般基礎Ⅲ

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
			3 年 次			4 年 次			
			1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	
選 択	英語Ⅲ	3	2	2	2				
	英語Ⅳ	2				2	2		
	検定英語Ⅱ (a)	1							3 年次入学者のみ対象
	検定英語Ⅱ (b)	1							3 年次入学者のみ対象
	ドイツ語Ⅲ	3	2	2	2				
	ドイツ語Ⅳ	2				2	2		
	フランス語Ⅲ	3	2	2	2				
	フランス語Ⅳ	1				1	1		
	中国語	3	2	2	2				

(注) 検定英語Ⅱ (a), 検定英語Ⅱ (b) は、英語検定試験 (TOEIC、TOEFL等) で必要な成績を修めた場合、単位認定する。

③ 一般基礎Ⅳ

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
			3 年 次			4 年 次			
			1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	
必修	技術者倫理	1				1			
選択Ⅱ	日本語法 (A~K)	各1	1 (A)	各1 (B-I)	各1 (J-K)				1単位
	英語基礎Ⅱ (H, I, J)	各1	各2 (H-J)						1単位
	総合科目Ⅳ (A, B)	各1	各1 (A, B)						1単位
	総合科目Ⅴ (A, B, C, D)	各1	各1 (A)	各1 (B, C)	各1 (D)				1単位
	総合科目Ⅵ (A, B, C, D)	各1	1 (D)	1 (A)	各1 (B, C)				1単位
	総合科目Ⅶ (A, B, C, D)	各1	1 (A)	1 (B)	各1 (C, D)				1単位

注 進級者は上記の他、入学時の教育課程において選択Ⅰの中から2科目以上、3単位以上を第4年次までに修得しなければならない。

機械システム工学課程第3年次編入学者及び進級者

区 分	必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考	
				3年次			4年次				
				1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期		
専 門 II	必 修	機械工学創造実験	1	3							
		機械工学実験Ⅱ	2		6						
		応用数学Ⅰ	1.5	2							
		応用数学Ⅱ	1.5	2							
		応用数学Ⅲ	1.5		2						
		応用数学Ⅳ	1.5		2						
		機械情報処理実習	1					3			
		特別研究	6						18		
		実務訓練	6								18
	選 択 必 修 I	流体物理学	1	1							
		数値解析法基礎Ⅰ	1	1							
		数値解析法基礎Ⅱ	1		1						
		光学基礎	1		1						
		電子・情報工学概論	2	2							
		電子機械制御	2			2					
		応用数値解析法Ⅰ	1			1					
		応用数値解析法Ⅱ	1					1			
		電気機器概論	2					2			
		統計熱力学	1					1			
	選 択 必 修 II	機械設計Ⅰ	1	1							
		計測工学	1	1							
		伝熱工学	2	1	1						
		応用熱力学	2	1	1						
		制御工学Ⅰ	2	1	1						
		弾性力学	2		2						
		流体力学	2		1	1					
		金属材料学	1			1					
		材料強度学	2			2					
		制御工学Ⅱ	1			1					
		機械力学	2			2					進級者のみ受講可能
機械動力学		2			2						
振動工学		2					2				
機械加工学	1					1					
選 択 III	エネルギー・環境論	1	1								
	機構学	1		1						進級者のみ受講可能	
	機械設計Ⅱ	1		1							
	熱機関	1				1					
	流体機械	1					1				
	トライボロジー	1					1				
	燃焼工学	1					1				
	自動車工学	1						1			
	機械システム工学特別講義	1						1			
	最適化システムⅠ	1							1		
精密加工学	1							1			

生産システム工学課程第1年次入学者

区 分	必選の別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
				1 年 次			2 年 次			
				1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	
専 門 I	必 修	生産技術史入門	1		1					
		微分方程式A	1				1			
		機械製図 I	1		3					
		機械製図 II	1			3				
		設計製図 I	1				3			
		設計製図 II	1					3		
		工学基礎実験	1			3				
		工学実験	3						9	
	選 択 I	一般情報処理 I	3		4					
		一般情報処理 II	2			2				
		電気回路論 I A	2		2					
		電気回路論 I B	2			2				
		電子回路 I	2				2			
	選 択 II	図学 I	1	1						
		図学演習 I	0.5	1						
		図学 II	1		1					
		図学演習 II	0.5		1					
		生産システム工学入門	1					1		
		機械工作法 I	1					1		
		機械工作法 II	1						1	
		機構学	1					1		
		機械要素	2						2	
		材料工学概論	1					1		
		機械力学	2						2	
		水力学 I	1				1			
		水力学 II	1					1		
		水力学 III	1						1	
		材料力学 I	1.5				2			
材料力学 II	1.5					2				
工業熱力学 I	1				1					
工業熱力学 II	1					1				
工業熱力学 III	1						1			

生産システム工学課程第3年次編入学者及び進級者

区 分	必選の別	授業科目	単 位 数	講 時 数						備 考
				3年次			4年次			
				1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	
専 門 II	必修	生産システム工学基礎実験	2	6						
		生産システム工学創造実験	1			3				
		プログラミング基礎	3		3					
		生産システム工学研究法基礎	2				4			
		生産システム工学卒業研究	6				18			
		実務訓練	6						18	
		線形代数	2	2						
		ベクトル解析	1		1					
		確率・統計	1			1				
	選択必修I	生産システム工学基礎	1	1						選択必修Iから10単位以上を修得しなければならない。 1年次進級者で、工学解析数学、旧[数学IV A] (現:微分方程式B)、旧[数学IV B](現:複素関数)を履修済の者は、それらを10単位の中 に含めることができる。ただし、各科目を1単位換 算する。3年次編入者で、本学入学前に、「微分 方程式B」を未履修の者は必ず履修すること。
		生産システム工学計算解析	3			3				
		ロボット創造工学	2		2					
		電子機械制御	2			2				
		電子・情報工学概論	2	2						
		工学解析数学	1		1					
		複素関数	1			1				
	微分方程式B	1	1							
	選択必修II (生産システム工学 専門分野)	機械設計I	1	1						機械工学基礎分野、材料工学分野 生産加工学分野及びシステム工学 分野から、それぞれ3単位以上、 合計12単位以上修得しなければ ならない。
		機械設計II	1		1					
		熱移動解析	1		1					
		ロボット工学	1	1						
		機械力学	2			2				
		応用熱力学	1	1						
		材料工学基礎論I	1	1						
		材料工学基礎論II	1			1				
		材料保証学	1		1					
		金属材料学	1			1				
非金属材料学		1			1					
塑性加工学		1	1							
加工の力学		1			1					
接合加工学		1	1							
表面プロセス工学		1		1						
機械加工学		1	1							
精密加工学	1		1							
分 野 工 学	制御工学基礎論	1		1						
	制御工学解析論	1			1					
	計測システムI	1	1							
	計測システムII	1			1					
	最適化システムI	1		1						
	最適化システムII	1			1					
選 択 III (応用 機械 工学 分野)	制御工学設計論	1			1					
	生産工学	1			1					
	流体機械	1				1				
	熱機関	1			1					
	トライボロジー	1			1					
	自動車工学	1			1					
	腐食・防食工学	1			1					
	流体・物質移動解析	1			1					
	素材生産工学	1				1				
	材料構造解析	1			1					
	構成材料強度学	1			1					
	材料力学I	1.5	2						3年次編入学生で材料力学の未履修者は履修が望ましい。	
	材料力学II	1.5		2						
	機械設計・同演習	2				3			進級者及び機械系学科以外の学科出身の編入学者に限る	
	力学	1	1						3年次編入学生で力学・電磁気学を未履修の者は必ず履修すること。	
電磁気学	1	1								

電気・電子工学課程第1年次入学者

区分	必・選の別	授業科目	単位数	講時数						備考
				1年次			2年次			
				1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	
専	必修	電気回路論ⅠA	2		2					
		電気回路論ⅠB	2			2				
		電気回路論Ⅱ	2				2			
		電磁気学序論	*	2		2				
		電磁気学Ⅰ	*	2			2			
		電磁気学Ⅱ	*	2				2		
		電子回路Ⅰ	2				2			
		電子回路Ⅱ	2					2		
		一般情報処理Ⅰ	*	3	4					
		論理回路論Ⅰ	2						2	
		電気・電子工学基礎実験	3					9		
門	I 選択	国学Ⅰ	*	1	1					
		国学演習Ⅰ	*	0.5	1					
		国学Ⅱ	*	1		1				
		国学演習Ⅱ	*	0.5		1				
		電気回路論演習A		0.5		1				
		電気回路論演習B		0.5			1			
		電気情報数学基礎	*	2		2				
		情報科学序論	*	2			2			
		一般情報処理Ⅱ	*	2			2			
		応用数学	*	2				2		
		電気回路論Ⅲ		2					2	
		通信工学概論		2					2	
		電気機械工学Ⅰ		2					2	
		電気機械工学Ⅱ		2						2
		プログラム基礎Ⅰ	*	2					2	
		プログラム基礎Ⅱ	*	2						2
		電気計測		2						2
		システム基礎論		2						2
電力工学Ⅰ		2						2		

* : 専門ⅠA (自然科学系科目)

無印: 専門ⅠB (専門技術系科目)

電気・電子工学課程第3年次編入学者及び進級者

区 分	必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考	
				3年次			4年次				
				1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期		
専 門 II	必 修	数学Ⅳ	*	1.5	2						
		数学Ⅴ	*	1.5		2					
		電気数学Ⅰ	*	2	2						
		電気数学Ⅱ	*	2		2					
		電磁気学Ⅲ	*	2	2						
		電磁気学Ⅳ		2		2					
		電気回路論Ⅳ		2	2						
		電子回路Ⅲ		2		2					
		論理回路Ⅱ		2				2			
		電気物性基礎論Ⅰ	*	2	2						
		固体電子工学Ⅰ		2	2						
		電気・電子工学実験Ⅰ	*	4			12				
		電気・電子工学実験Ⅱ		2				6			
		特別実験		4					12		
		実務訓練		6							18
	選 択	プログラム構成法		2	2						
		数値解析		2		2					
		固体電子工学Ⅱ		2		2					
		デジタル信号処理論		2		2					
		データ構造とアルゴリズム		2		2					
		電磁気学Ⅴ		2			2				
		情報理論		2			2				
		計算機構成概論		2			2				
		情報ネットワーク		2			2				
		電子回路Ⅳ		2			2				
		半導体工学Ⅰ		2			2				
		通信システム		2			2				
		電気数学演習	*	0.5			1				指定者のみ履修
		電気物性基礎論Ⅱ		2				2			
		高電圧工学		2				2			
		電気機器設計法及び製図		2				2			
		電離気体論		2				2			
信頼性工学		2				2					
半導体工学Ⅱ		2				2					
信号解析論		2				2					
制御工学		2				2					
論理回路設計		2					2				
電力工学Ⅱ		2					2				
電気材料論		2					2				
光工学		2					2				
エネルギー変換工学		2					2				
集積回路工学		2					2				
電波法規		1					1				
工場管理		1					1				
電気法規		1					1				
電気・電子工学特別講義Ⅰ		1					1				
電気・電子工学特別講義Ⅱ		1					1				

* : 専門ⅠA (自然科学系科目)
 無印: 専門ⅠB (専門技術系科目)

情報工学課程第1年次入学者

区 分	必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
				1 年 次			2 年 次			
				1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	
専 門 I	必 修	電気回路論 I A	2		2					
		電気情報数学基礎	2		2					
		一般情報処理 I	3		4					
		一般情報処理 II	2			2				
		電磁気学序論	2			2				
		電子回路 I	2				2			
		論理回路 I	2						2	
		プログラム基礎 I	2					2		
		プログラム基礎 II	2						2	
		情報工学基礎実験	3						9	
I	選 択	国学 I	1	1						
		国学演習 I	0.5	1						
		国学 II	1		1					
		国学演習 II	0.5		1					
		情報科学序論	2			2				
		電気回路論 I B	2			2				
		電気回路論演習 A	0.5		1					
		電気回路論演習 B	0.5			1				
		電気回路論 II	2				2			
		データ分析理論	2				2			
		応用数学	2				2			
		電磁気学 I	2				2			
		電磁気学 II	2					2		
		電気回路論 III	2					2		
		電子回路 II	2					2		
		通信工学概論	2					2		
		認知工学	2					2		
		電気計測	2						2	
		計算機構成概論	2						2	
システム基礎論	2						2			
知能情報処理	2						2			

情報工学課程第3年次編入学者及び進級者

区 分	必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考	
				3年次			4年次				
				1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期		
専 門 Ⅱ	必 修	数学Ⅳ *	1.5	2							
		数学Ⅴ *	1.5	2							
		情報数学Ⅰ *	2	2							
		論理回路Ⅱ *	2	2							
		計算機構成論Ⅰ *	2	2							
		プログラム構成法 *	2	2							
		データ構造とアルゴリズム *	2		2						
		形式言語論	2		2						
		メディア工学	2			2					
		情報ネットワーク	2			2					
		情報工学実験Ⅰ *	4		12						
		情報工学実験Ⅱ	2					6			
		特別実験	4					12			
		実務訓練	6							18	
	選 択	電子回路Ⅲ	2	2							
		論理数学	2		2						
		数値解析	2		2						
		線形システム論	2		2						
		デジタル信号処理論	2		2						
		情報理論	2			2					
		言語処理系論	2			2					
		通信システム	2			2					
		システム・プログラム論	2			2					
		情報数学Ⅱ	2			2					
		電磁気学Ⅴ	2			2					
		半導体工学Ⅰ	2			2					
		計算理論	2				2				
		計算機構成論Ⅱ	2				2				
		プログラミング言語論	2				2				
		シミュレーション工学	2				2				
		信号解析論	2				2				
		制御工学	2				2				
符号理論	2				2						
半導体工学Ⅱ	2				2						
知識工学	2					2					
集積回路工学	2					2					
工場管理	1					1					
電気法規	1					1					
電波法規	1					1					
情報工学特別講義Ⅰ	1					1					
情報工学特別講義Ⅱ	1					1					

* : 専門ⅡA (自然科学系科目)

無印: 専門ⅡB (専門技術系科目)

物質工学課程第1年次入学者

区 分	必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
				1 年 次			2 年 次			
				1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	
専 門	必 修	基礎物理化学Ⅰ	2		2					
		基礎物理化学Ⅱ	2					2		
		基礎有機化学Ⅰ	2		2					
		基礎有機化学Ⅱ	2					2		
		基礎無機化学Ⅰ	2			2				
		基礎無機化学Ⅱ	2					2		
		基礎分析化学Ⅰ	2			2				
		基礎分析化学Ⅱ	2						2	
		基礎科学技術英語Ⅰ	1.5			3				
		基礎科学技術英語Ⅱ	1.5				1	1	1	
		物質工学基礎実験Ⅰ	2				6			
		物質工学基礎実験Ⅱ	2					6		
		物質工学基礎実験Ⅲ	2						6	
		I	選 択	図学Ⅰ	1	1				
図学演習Ⅰ	0.5			1						
図学Ⅱ	1				1					
図学演習Ⅱ	0.5				1					
一般情報処理Ⅰ	3				4					
一般情報処理Ⅱ	2					2				
電子回路Ⅰ	2						2			

物質工学課程第3年次編入学者及び進級者

区分	必・選の別	授業科目	単位数	講時数						備考
				3年次			4年次			
				1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	
専門II	必修	化学安全学	1	集中講義						
		物質科学技術英語	2	4						
		物質工学実験	4	12						
		物理化学Ⅰ	1	1						
		物理化学Ⅱ	1		1					
		有機物質化学Ⅰ	1	1						
		有機物質化学Ⅱ	1		1					
		無機物質化学Ⅰ	1	1						
		無機物質化学Ⅱ	1		1					
		分析学Ⅰ	1	1						
		分析学Ⅱ	1		1					
		生命物質学Ⅰ	1	1						
		生命物質学Ⅱ	1		1					
		基礎化学数学	1	1						
		物質工学卒業研究Ⅰ	4			12				
		物質工学卒業研究Ⅱ	8					24		
		物質工学演習Ⅳ	3					6		
	実務訓練	6							18	
	選択	物理化学Ⅲ	1			1				
		有機物質化学Ⅲ	1			1				
		無機物質化学Ⅲ	1			1				
		分析学Ⅲ	1			1				
		生命物質学Ⅲ	1			1				
		実用化学計算	1			1				
		熱・エネルギー工学	2	2						
		無機材料科学	1			1				
		力学物性論	1					1		
		気体現象論	1					1		
		コロイド・界面科学	1						1	
		化学エネルギー論	1						1	
		精密有機合成学	1					1		
		高分子反応学	1					1		
		高分子材料学	1					1		
触媒反応速度論		1					1			
応用物性化学	1					1				
気相分離科学	1					1				
液相分離科学	1						1			
分析化学反応	1						1			
単結晶X線構造解析入門	1						1			
脳機能分子論	1					1				
物質工学Ⅰ	1		1							
物質工学Ⅱ	1					集中講義				
物質工学Ⅲ	1					集中講義				
物質工学特別講義Ⅰ	1		集中講義							
物質工学特別講義Ⅱ	1		集中講義							
物質工学特別講義Ⅲ	1		集中講義							
物質工学特別講義Ⅳ	1		集中講義							

建設工学課程第1年次入学者

区分	必・選の別	授業科目	単位数	講時数						備考
				1年次			2年次			
				1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	
専	必修	建設設計演習Ⅰ	3		6					
		構造力学Ⅰ・同演習	2.5		3					
		数学ⅣA	1.5				2			
		建設設計演習Ⅱ	4				8			
		測量学Ⅰ・同実習	3				5			
		構造力学Ⅱ・同演習	2.5				3			
		環境学序論Ⅰ	1				1			
		環境学序論Ⅱ	1					1		
		建設物理学	2						2	
		建設生産工学	1			1				
数学ⅣB	1.5					2				
門	選択必修	建設学対話ⅠA	0.5			1				構造分野 構造、環境及び計画の3分野からそれぞれ0.5単位、合計では1.5単位を修得しなければならない。
		建設学対話ⅡA	0.5				1			
		建設学対話ⅢA	0.5					1		
		建設学対話ⅠB	0.5			1				
		建設学対話ⅡB	0.5				1			
		建設学対話ⅢB	0.5					1		
		建設学対話ⅠC	0.5			1				
		建設学対話ⅡC	0.5				1			
		建設学対話ⅢC	0.5					1		
		門	選択	構造システム学	1		1			
図学Ⅰ	1			1						
図学演習Ⅰ	0.5			1						
図学Ⅱ	1				1					
図学演習Ⅱ	0.5				1					
一般情報処理Ⅰ	3				4					
一般情報処理Ⅱ	2					2				
造形演習	2								4	
計画序論	1						1			

建設工学課程第3年次編入学者及び進級者

区分	必・選の別	授業科目	単位数	講時数						備考	
				3年次			4年次				
				1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期		
専	必修	建設設計演習Ⅲ	3		6						
		空間情報設計演習Ⅰ	1			2					
		空間情報設計演習ⅡA	1				2			建築コースの学生を対象	
		空間情報設計演習ⅡB	1				2			社会基盤コースの学生を対象	
		測量学Ⅱ	2	2							
		建設英語	1			1					
		建設数学A	* 1.5	2						編入学生を対象	
		建設数学B	* 1.5		2					編入学生を対象	
		建設工学特別演習	6					12			
		実務訓練	6						18		
門	選択必修Ⅰ	構造力学ⅢA	1	1						構造分野 構造、環境及び計画の3分野からそれぞれ3単位以上、合計では12単位以上を修得しなければならない。	
		構造力学ⅢB	1		1						
		鉄筋コンクリート構造学Ⅰ	1	1							
		地盤工学Ⅰ	1	1							
		構造計画法	1		1						
		地盤解析学	1		1						
		建築環境工学ⅠA	1	1							環境分野
		建築環境工学ⅠB	1	1							
		応用流体力学	1	1							
		河川環境水理学	1		1						
衛生工学Ⅰ	1	1									

選 択 必 修 I	都市地域計画	1	1					計 画 分 野
	日本建築史	1		1				
選 択 必 修 II	建築計画	1		1				
	住宅計画	1		1				
選 択 必 修 II	施設マネジメント	1		1				
	交通工学I	1		1				
選 択 必 修 II	建設工学実験A	1				2		A・Bいずれかのみを履修すること
	建設工学実験B	1				2		
専 門 II 選 択	建設情報処理	* 1		2				
	土木数理演習I	* 0.5			1			社会基盤コースの学生は必修
	土木数理演習II	* 0.5			1			社会基盤コースの学生は必修
	計画数学	* 1			1			
	数値解析演習	* 1					2	
	測量学II演習	1					2	社会基盤コースの学生は必修
	建設法規	1					1	
	建設工学特別講義I	* 1			1			編入学指定者対象
	建設工学特別講義II	* 1			2			編入学指定者対象
	建設工学特別講義III	* 1					2	編入学指定者対象
	建設工学特別講義IV	* 1					2	編入学指定者対象
	建設工学特別講義V	* 1					2	編入学指定者対象
	地盤工学II・同演習	1.5		2				
	鉄筋コンクリート構造学II・同演習	1.5		2				A3/4/6
	構造設計演習	0.5			1			A3
	構造解析法A	2					2	A3/6
	構造解析法B	2					2	A3/6
	建設施工・マネージメント	1					1	A4
	木質構造	1					1	A3/4
	鋼構造学・同演習	1.5		2				A3/4/6
	建築環境工学I演習	1			2			A2
	建築設備	1			1			A2
	建築環境工学II・同演習	3					4	A2/6
	応用流体力学演習	0.5	1					
	河川環境水理学演習	0.5		1				
	衛生工学I演習	0.5			1			
	海岸環境水理学	1					1	
	水圏環境学	1					1	
	環境流体力学・同演習	1.5					2	
	衛生工学II・同演習	1.5					2	
	大気環境システム工学	2			2			
	交通工学II	1			1			
	交通工学III	1					1	
都市計画演習	1			2			A5/6	
西洋・東洋建築史	1			1			A5/6	
意匠設計	2	2					A5/6	
建設設計演習IV	1			2			A5/6	
建築再生設計	1					1	A4/6	
施設マネジメント・同演習	1.5					2	A1/4/6	
建築計画・同演習	1.5					2	A1/6	
住宅計画・同演習	1.5					2	A5/6	

* 印 専門II A (自然科学系科目)
無印 専門II B (専門技術系科目)

なお、建築コースでは、各自の単位修得状況に応じてA1～A5の不足時間数を受講すること

知識情報工学課程第1年次入学者

区 分	必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
				1 年 次			2 年 次			
				1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	
専 門	必 修	一般情報処理 I	3	4						
		一般情報処理 II	2			2				
		情報科学序論	2			2				
		分子情報工学序論	2		2					
		機能情報工学序論	2					2		
		知識情報工学基礎実験	3					9		
I	選 択	図学 I	1	1						
		図学演習 I	0.5	1						
		図学 II	1		1					
		図学演習 II	0.5		1					
		電気回路論 I A	2		2					
		電気回路論 I B	2			2				
		電気回路論演習 B	0.5			1				
		電気回路論 II	2				2			
		電子回路 I	2				2			
		電子回路 II	2					2		
		論理回路	2						2	
		知識情報数学	2						2	
		データ分析理論	2				2			
		システム基礎論	2						2	
		知能情報処理	2						2	
		認知工学	2					2		
プログラミング序論	2						2			
計算機構成概論	2						2			

知識情報工学課程第3年次編入学者及び進級者

区分	必・選の別	授業科目	単位数	講時数						備考
				3年次			4年次			
				1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	
専門	必修	知識情報工学実験	6	18						
		プログラミングA	1		2					
		プログラミングB	1			2				
		線形代数学	2		2					
		基礎数学	2	2						
		論理数学	2		2					
		情報数学	2		2					
		アルゴリズム・データ構造	2	2						
		計算機構成論	2	2						
		ソフトウェア設計論	2	2						
		ネットワーク工学	2			2				
		プログラミング言語論	2			2				
		離散数学	2			2				
		特別研究	7				21			
実務訓練	6						18			
II	選択	コンパイラ	2		2					
		形式言語論	2		2					
		データベース論	2				2			
		オペレーティングシステム	2				2			
		ソフトウェア工学	2				2			
		情報組織論	2					2		
		デジタル信号処理	2				2			
		オペレーションズ・リサーチ	2					2		
		分子情報システム論	2				2			
		知識工学	2					2		
		情報理論	2					2		
		数値解析学	2					2		
		計算理論	2				2			
		分子理論	2					2		
画像工学	2				2					
神経生理工学	2				2					

エコロジー工学課程第1年次入学者

区分	必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数						備 考
				1 年 次			2 年 次			
				1 学 期	2 学 期	3 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	
専 門	必 修	エコロジー工学入門	2		2					
		エコロジー工学英語Ⅰ	1		2					
		エコロジー工学演習Ⅰ	1		2					
		エコロジー工学英語Ⅱ	1.5				1	1	1	
		エコロジー工学演習Ⅱ	1.5				1	1	1	
		エコロジー工学基礎実験	3				9			
		物理化学Ⅰ	1				1			
		物理化学Ⅱ	1					1		
		物理化学Ⅲ	1						1	
I 選 択		生命科学	2			2				
		環境生態科学	2		2					
		電磁気学Ⅰ	2			2				
		電気回路論ⅠA	2		2					
		電気回路論ⅠB	2			2				
		一般情報処理Ⅰ	3		4					
		図学Ⅰ	1	1						
		図学演習Ⅰ	0.5	1						
		図学Ⅱ	1		1					
		図学演習Ⅱ	0.5		1					
		一般情報処理Ⅱ	2			2				
		生化学	2				2			
		分析化学(1)	1					1		
		分析化学(2)	1						1	
		基礎電気工学	1						1	
基礎化学工学	1						1			
電子回路Ⅰ	2				2					

エコロジー工学課程第3年次編入学者及び進級者

区分	必・選の別	授業科目	単位数	講時数						備考	
				3年次			4年次				
				1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期		
専門II	必修	数理解析Ⅰ	1	2							
		数理解析Ⅱ	1	2							
		数理解析Ⅲ	1		2						
		エコロジー情報工学	2		2						
		エコロジー工学英語Ⅲ	1.5	1	1	1					
		エコロジー工学実験	3		9						
		エコロジー工学特別演習	2					4			
		エコロジー工学卒業研究	8					24			
		実務訓練	6							18	
	選択必修Ⅰ	エネルギー・環境論	1	1							
		産業生態工学Ⅰ	1			1				選択必修Ⅰの中から3単位以上修得すること	
		産業生態工学Ⅱ	2				2				
		循環社会工学	2				2				
		化学生態学	1	集中講義							
	分子生物学	2			2						
	選択必修Ⅱ	生物生態工学Ⅰ	1			1				選択必修Ⅱの中から2単位以上修得すること	
		生物生態工学Ⅱ	1				集中講義				
		応用微生物学	2				2				
		電気電子工学Ⅰ	2	2							
	選択必修Ⅲ	電気電子工学Ⅱ	2			2				選択必修Ⅲの中から2単位以上修得すること	
		無機電子工学	1		1						
		電子物性基礎論	2				2				
		熱・エネルギー工学	2	2							
	選択必修Ⅳ	環境無機化学	1	1						選択必修Ⅳの中から13単位以上修得すること	
		生命有機化学	2	2							
		応用物理化学	2	2							
		プロセス装置工学	2		2						
		環境保全工学	2		2						
生物学		2		2							
細胞エネルギー工学		2		2							
生体環境分析学		2		2							
遺伝子工学		2			2						
大気環境計画論		2			2						
環境材料工学		2				2					
選択	計測制御工学	2			2						
	情報数理工学	1			1						
	環境評価計画論	1	集中講義								
	エコロジー工学特別講義	2	集中講義								
	製図学基礎	1				集中講義					
	デジタル信号処理論	2				2					
	論理回路設計	2					2				

(注) 選択必修Ⅰ～Ⅳおよび選択科目(他課程開講科目を含む)の合計単位数として24.5単位以上修得すること。

工学研究科修士課程

I 修了要件等

1 修了要件

修士課程の修了要件は、修士課程に2年以上在学し、課程修了に必要な最低修得単位数を以下のとおり修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することと定めている。ただし、優れた業績を上げた者については、在学期間を短縮して修了することができる。

なお、社会計画工学を主として履修する学生の輪講Ⅰ・Ⅱ及び特別研究は「社会計画工学輪講Ⅰ」、「社会計画工学輪講Ⅱ」及び「社会計画工学特別研究」とする。

区 分		修了要件 単 位 数	備 考	
共通科目	社会計画工学関係科目	2		
	社会文化学関係科目	4	指導教員が適当と認めた場合は、2単位までに限り、学部その他課程の科目（特別講義を除く）で代替できる。	
	計	6		
専攻科目	機械システム工学専攻	24	6単位	① 指導教員が適当と認めた場合は、6単位までに限り、他専攻の科目（特別講義を除く）をもって代替できる。 ② 社会計画工学を主として履修する学生は、上記①と合わせ、左記の単位数までに限り、社会計画工学関係科目をもって代替できる。 ③ 指導教員が適当と認めた場合は、①と合わせ、6単位までに限り、「英語特別コース」の自専攻科目の科目をもって、代替できる。
	生産システム工学専攻	24	6単位	
	電気・電子工学専攻	24	6単位	
	情報工学専攻	24	6単位	
	物質工学専攻	24	6単位	
	建設工学専攻	24	6単位	
	知識情報工学専攻	24	6単位	
	エコロジー工学専攻	24	6単位	
計	30			

2 学位の申請

修了要件の単位を修得した者、又は修得見込みの者でなければ学位を申請することができない。なお、学位論文等の提出については、掲示で通知する。

Ⅱ 履修方法・試験・在学年限等

1 履修方法

授業科目は、在学専攻の教育課程に従って履修すること。

(1) 履修計画

履修計画は、本書をよく読み、年度始めに行われるガイダンスや指導教員の指導・助言をもとに、授業時間割表により余裕をもって立てること。

なお、選択科目は、都合により開講されない場合があるので、十分注意すること。

- 1 授業時間割表については、各学年の始めに配付する。
なお、集中講義科目については開講時期等が決定次第、掲示等により通知する。
- 2 履修に関する連絡は、学年の始め及び学期の始めに集中するので、見落とさないように注意すること。

(2) 履修登録

履修しようとする授業科目は、「受講科目履修登録表」により、学年の始めの所定の期日までに開講時期等が未確定の集中講義科目を含めてすべて履修登録しなければならない。

履修登録していない授業科目の単位認定は、一切認められない。

なお、各学期の始めの履修登録変更期間に、その学期以降の授業科目について履修変更することができる。

- 1 他専攻及び他課程の授業科目を履修しようとする場合は、「他課程（専攻）科目受講許可願」により指導教員及び授業担当教員の許可を受けた上で履修登録すること。
- 2 履修登録したにもかかわらず、授業や試験を受けない場合は、その授業科目は不合格とする。ただし、履修登録の取り消しをした場合はこの限りでない。
- 3 単位を修得した授業科目は、再度履修登録できない。
- 4 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修できない。重複して履修登録した場合、両方の科目が登録されないので注意すること。ただし、試験等による再履修科目及び集中講義科目については、この限りでない。

(3) 履修登録の確認及び訂正

履修登録の確認は、「履修登録確認表」（年度初めに各自に一度しか配布しない）により行うこと。記載された内容に間違いがある場合は、1学期の履修登録変更期間に訂正の手続きを必ず行うこと。

(4) 再履修

定期試験等で不合格となった授業科目のうち、修得を必要とする授業科目は、原則として次年度に再履修すること。

なお、再履修しようとする授業科目についても、履修登録すること。

(5) 試験等による再履修

再履修の場合で、授業科目担当教員が、試験等により単位認定すると認めた場合に限り、「試験等による再履修願」により授業科目担当教員の許可を受けた上で履修登録すること。

2 試験

試験には、定期試験及び追試験がある。

(1) 定期試験

定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて実施する。ただし、授業科目担当教員が必要と認めた場合は、随時に試験が行われる。

なお、定期試験の実施期間及び試験時間割等は、その都度掲示等で通知する。

(2) 追試験

ア 追試験は、学生が次の理由により、当該授業科目の定期試験を受けることができなかった場合に限り、「追試験受験許可願」に授業科目担当教員等の許可を受けた上で、受験することができる。

- ① 病気（医師の診断書を添付）のとき
- ② 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

イ 「追試験受験許可願」は、定期試験最終日の翌日から数えて1週間以内に学務課へ提出しなければならない。

ウ 追試験を受験できなかった場合、再度の追試験は実施しない。

(3) 単位の認定及び成績評価

授業科目の単位認定は、試験等により授業科目担当教員が行う。

- ① 成績の評価は次の基準によって行い、A、B及びCを合格、Dを不合格とし、C以上の評価を得た場合に単位を認定する。

- A・・・80点以上
- B・・・65点以上80点未満
- C・・・55点以上65点未満
- D・・・55点未満

- ② 単位認定された成績は、各学期終了後、学務課から「単位修得表」により通知する。（配付日は、履修登録関係日程を参照すること。）

3 在学年限

修士課程の学生は、4年を超えて在学することができない。

4 休学

疾病その他特別の理由により、引き続き2か月以上修学することができない場合は、所定の「休学願」を指導教員及び所属系長を経由して、原則として休学をしようとする月の前々月の末日までに学務課へ提出し、学長の許可を得て休学することができる（通算して2年以内）。

休学期間は、前記「3 在学年限」に算入しない。

なお、休学期間が満了となり、復学する場合は、「復学届」を提出しなければならない。

また、休学事由の消滅により、休学期間中に復学しようとする場合は、「復学願」を提出し、原則として復学をしようとする月の前々月の末日までに学務課へ提出し、学長の許可を受けなければならない。

5 退学・除籍

本紙の23頁（4）退学、（5）除籍の項を参照。

6. 単位互換制度

本学では、多様な授業を受けられるよう他大学と単位互換に関する協定を結びました。単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。受講には手続きが必要ですので、その都度、掲示等でお知らせします。

	愛知大学大学院との単位互換	遠隔教育による大学院単位互換	eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換
目的・趣旨	両大学の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として単位互換に関する協定が締結されています。	相互の交流と教育課程の充実を図ることを目的として遠隔教育による単位互換の協定が締結されています。	相互の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として（eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育）単位互換に関する協定が締結されています。
対象大学等	愛知大学	[国立大学] 室蘭工業大学、北見工業大学、東京農工大学、東京工業大学、電気通信大学、長岡技術科学大学、名古屋工業大学、京都工芸繊維大学、九州工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学	[国立大学] 長岡技術科学大学、九州工業大学、北陸先端科学技術大学院大学
学生の身分	特別聴講学生		
授業料等	無 料		
開講科目	出願期間前に「開講科目一覧表」配付		
出願期間	掲示で周知する		
卒業単位としての上限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通科目の場合は、履修要覧に定める修了要件において代替できる本学学部の他課程の科目と合算して2単位。 ・ 専攻科目の場合は、履修要覧に定める修了要件において代替できる本学大学院の他専攻の科目と合算して6単位。 		

Ⅲ 教育課程

1 授業科目・単位等

(1) 授業科目

授業科目は、大きく共通科目と専攻科目に分かれ、それぞれの授業科目ごとに単位を定めている。開講授業科目については、次頁以降の共通科目等及び専攻科目を参照すること。なお、授業科目の内容については、別冊「授業紹介」を参照すること。

(2) 必修科目と選択科目

- ① 必修科目は、必ず履修して単位を修得しなければならない科目である。
- ② 選択科目は、開講されている科目の中から選択して履修し、単位を修得する科目である。

(3) 単位の計算方法

授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれか、又はこれらの併用により行われるが、1単位の履修時間は、次の基準により計算する。

- ① 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

(4) 授業期間

授業期間は、学年暦（表紙裏面参照）によって定めており、第1学期、第2学期及び第3学期の3学期から成っている。

2 共 通 科 目

共通科目について

本学は工科系の単科大学ですが、修士課程においても「共通科目」として人文社会の分野で6単位（「社会計画工学」2単位、「社会文化学」4単位）を修得することとしています。他大学と同様本学でも学部で人文・社会系の科目を履修することになっていますが、修士課程でもこのような科目の履修を義務づけているのは、他の大学には例のないユニークな教育課程です。

本学の教育目標は「実践的・創造的な能力を備えた指導的技術者・研究者」の育成です。工学は私たちの生活を豊かにすることを目指すものですから、技術者研究者は工学を人間や社会との関わりの中で見ることができなければなりません。そのためには自分で考え、判断する力が必要ですが、その基礎となるのは人間とその文化や社会的営みについての幅広く豊かな知識、人間的な心と感性です。ここでいう「人間」、「社会」とは当然、歴史的及び世界的な広がりにおいても理解されるべきものです。人間とは何者で、これまで何をし、これから何をしようとしているのか、そしてそれは日本においてどうなのか、私たちは何を価値あることと考えているのか。こうしたことについて知識を得、自分で考えることが大切です。その基礎の上に立って、工学が何をなし得るのか、なにをなすべきなのかを自分で考えられること、それが「創造的」ということです。20世紀後半には、それまでの産業社会で通用した考え方もはや通用しないことがはっきりしてきました。新たな「創造性」が求められています。

このようなことは教室で教わるまでもなく、自分でどんどん考えていってほしいことですが、そのための手掛かりを提供することが「共通科目」の役割です。ここを入口に、専門の勉強を続ける中でさらに深めていってほしいのです。そして本学の教育課程を終えた後には、ひとりの社会人そして世界市民としてこれからの社会・世界を構想していくプロセスにそれぞれの場で参加していただきたいと思います。

共通科目

分野	必・選の別	授業科目	単位数	講時数				備考
				1年次			2年次	
				1学期	2学期	3学期		
社会 計画 工学	選 択	経済システム分析特論	2	2				
		計量経済学特論	2	集中講義				
		産業政策特論	2	2				
		管理科学特論	2	2				
		生産管理特論	2	2				
		環境計画特論	2	2				
		環境経済分析特論	2	2				
		社会計画工学輪講Ⅰ	3					社会計画工学を主として履修する学生を対象とする。
		社会計画工学輪講Ⅱ	3					
社会計画工学特別研究	8							
社会 文化 学	選 択	社会思想史特論Ⅰ	2	2				
		社会思想史特論Ⅱ	2	2				
		文学特論	2	2				
		哲学特論	2	2				
		音声学特論	2	2				
		言語と思想Ⅰ	2	2				
		言語と思想Ⅱ	2	2				
		言語と文化Ⅰ	2	2				
		言語と文化Ⅱ	2	2				
		日本文化論Ⅰ	2	2				
		日本文化論Ⅱ	2	2				
		英米文化論Ⅰ	2	2				
		英米文化論Ⅱ	2	2				
		西欧文化論	2	2				
		歴史と文化	2	2				
		異文化コミュニケーションⅠ	2	2				
		異文化コミュニケーションⅡ	2	2				
		言語と社会Ⅰ	2	2				
		言語と社会Ⅱ	2	2				
		脳神経科学特論	2	2				
運動生理学特論	2	2						
体育科学	2	2				修了要件単位に算入しない。		
日本事情	2	1	1					
特別 科目	選 択	研究開発と知的財産権	2	2				社会計画工学又は社会文化学分野のいずれかの修了要件単位として2単位まで算入できる。 海外インターンシップは、希望者のうち所定の要件を満たすもののみ受講可能である。(4月はじめに説明会開催。)
		海外インターンシップ	2	主として夏期休業期間中(2週間以上)				

3 専攻科目

機械システム工学専攻

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			1 年 次			2 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
必 修	機械システム工学輪講Ⅰ	3					
	機械システム工学輪講Ⅱ（※1）	3					
	機械システム工学特別研究（※2）	6					
選 択	応用熱工学Ⅰ	1	1				
	応用熱工学Ⅱ	1	1				
	流体工学特論	1	1				
	流体機械特論	1			1		
	混相流の工学	1		1			
	核エネルギー工学	1			1		
	応用燃焼学	1		1			
	エネルギー物理工学	1			1		
	乱流工学	1		1			
	振動工学特論	1		1			
	計算機械工学	1		1			
	破壊力学	1	1				
	機械表面分析	1	1				
	システム制御論（機械）	1			1		
	ロボット工学特論	1			1		
	機械表面物性	1		1			
	衝突力学	1		1			
	機械システム工学大学院特別講義Ⅰ	1	集中講義				
機械システム工学大学院特別講義Ⅱ	1	集中講義					

〔注1〕 ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（4単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注2〕 ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

生産システム工学専攻

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			1 年 次			2 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
必 修	生産システム工学輪講Ⅰ	3					
	生産システム工学輪講Ⅱ(※1)	3					
	生産システム工学特別研究(※2)	4					
	生産システム技術英語	1	1				
選 択	接合加工学特論	1			1		
	表面プロセス工学特論	1	1				
	マイクロマシニング特論	1	1				
	精密加工特論	1		1			
	計算力学	1	1				
	成形加工学	1		1			
	電気化学 - 平衡論・移動論	1	1				
	電気化学 - 反応速度論	1		1			
	金属物理化学特論	1	1				
	機械機能材料特論	1	1				
	材料機能制御特論	1		1			
	医療・福祉材料工学特論	1	1				
	材料保証学特論	1		1			
	システム制御論(生産)	1	1				
	システム制御設計論	1		1			
	計測システム工学特論	1	1				
	画像計測論	1		1			
	意思決定支援論	1		1			
	生産システム論	1			1		
	生産システム工学大学院特別講義Ⅰ	1	集中講義				
生産システム工学大学院特別講義Ⅱ	1	集中講義					
生産システム工学大学院特別講義Ⅲ	1	集中講義					

〔注1〕 ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目(6単位を限度とする。)の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注2〕 ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

電気・電子工学専攻

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			1 年 次			2 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
必 修	電気・電子工学輪講Ⅰ	3					
	電気・電子工学輪講Ⅱ(※1)	3					
	電気・電子工学特別研究(※2)	8					
選 択	技術英作文	1	1			1	
	超電導工学特論Ⅰ	2	2				
	超電導工学特論Ⅱ	2				2	
	スピン・エレクトロニクス特論	2				2	
	固体電子工学特論Ⅱ	2		2			
	表面物性特論	2				2	
	応用固体物理学特論	2	2				
	電気絶縁工学特論	2				2	
	エネルギー変換工学特論	2				2	
	電力工学特論	2			2		
	誘電体工学特論	2			2		
	プラズマ応用工学特論	2				2	
	パワーエレクトロニクス特論	2	2				
	電気応用工学特論	2				2	
	固体電子工学特論Ⅰ	2				2	
	光エレクトロニクス特論	2				2	
	半導体工学特論Ⅰ	2	2				
	半導体工学特論Ⅱ	2				2	
	半導体工学特論Ⅲ	2		2			
	集積回路工学特論	2			2		
	電気・電子工学大学院特別講義Ⅰ	1	集中講義				
電気・電子工学大学院特別講義Ⅱ	1	集中講義					

〔注1〕 ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目(4単位を限度とする。)の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注2〕 ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

情報工学専攻

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			1 年 次			2 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
必 修	情報工学輪講Ⅰ	3					
	情報工学輪講Ⅱ（※1）	3					
	情報工学特別研究（※2）	8					
選 択	技術英作文	1	1			1	
	情報工学基礎特論	2			2		
	電子計算機工学特論Ⅰ	2	2				
	電子計算機工学特論Ⅱ	2				2	
	電子計算機工学特論Ⅲ	2				2	
	電子計算機応用特論Ⅰ	2			2		
	電子計算機応用特論Ⅱ	2		2			遠隔教育
	画像工学特論	2	2				
	システム工学特論Ⅰ	2				2	
	システム工学特論Ⅱ	2		2			
	情報データ処理特論	2				2	
	生体情報工学特論	2			2		
	デジタル信号処理工学特論Ⅰ	2			2		
	デジタル信号処理工学特論Ⅱ	2				2	
	情報交換工学特論Ⅰ	2		2			
	情報交換工学特論Ⅱ	2				2	
	情報伝送工学特論Ⅰ	2	2				
	情報伝送工学特論Ⅱ	2				2	
情報工学大学院特別講義Ⅰ	1		集中講義				
情報工学大学院特別講義Ⅱ	1		集中講義				

〔注1〕 ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目（4単位を限度とする。）の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注2〕 ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

物質工学専攻

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			1 年 次			2 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
必 修	物質工学輪講Ⅰ	3					
	物質工学輪講Ⅱ(※1)	3					
	物質工学特別研究(※2)	6					
選 択	分離定量分析化学特論Ⅰ	1				1	
	分離定量分析化学特論Ⅱ	1				1	
	溶液化学特論	1				1	
	無機物性工学特論Ⅰ	1		1			
	無機物性工学特論Ⅱ	1		1			
	無機材料工学特論Ⅰ	1				1	
	無機材料工学特論Ⅱ	1				1	
	応用物理化学特論Ⅰ	1	1				
	応用物理化学特論Ⅱ	1	1				
	有機材料工学特論Ⅰ	1	1				
	有機材料工学特論Ⅱ	1	1				
	複合材料工学特論Ⅰ	1				1	
	複合材料工学特論Ⅱ	1				1	
	応用有機化学特論Ⅰ	1	1				
	応用有機化学特論Ⅱ	1	1				
	構造生物学特論	1				1	
	発生神経科学特論	1				1	
	エネルギー化学特論	1				1	
	物質工学大学院特別講義Ⅰ	0.5				0.5	
	物質工学大学院特別講義Ⅱ	0.5				0.5	
	物質工学大学院特別講義Ⅲ	0.5				0.5	
物質工学大学院特別講義Ⅳ	0.5		集中講義				
物質工学大学院特別講義Ⅴ	0.5		集中講義				
物質工学大学院特別講義Ⅵ	0.5		集中講義				

〔注1〕 ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目(6単位を限度とする。)の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注2〕 ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

建設工学専攻

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			1 年 次			2 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
必 修	建設工学輪講Ⅰ	3					
	建設工学輪講Ⅱ(※1)	3					
	建設工学特別研究(※2)	6					
選 択	構造工学特論Ⅰ	2				2	
	構造工学特論Ⅱ	2	2				
	構造力学特論Ⅰ	2				2	
	構造力学特論Ⅱ	2			2		
	地盤工学特論Ⅰ	2	2				
	地盤工学特論Ⅱ	2				2	
	構造学大学院特別講義Ⅰ	1	集中講義				
	構造学大学院特別講義Ⅱ	1				1	
	建築環境工学特論Ⅰ	2				2	
	建築環境工学特論Ⅱ	2		2			
	水工学特論Ⅰ	2		2			
	水工学特論Ⅱ	2				2	
	衛生工学特論	2				2	
	環境工学大学院特別講義Ⅰ	1	集中講義				
	環境工学大学院特別講義Ⅱ	1				1	
	都市計画特論	2				2	
	建築史特論	2				2	
	施設マネジメント特論	2				2	
	建築計画特論	2	2				
	住宅計画特論	2		2			
	交通計画特論	2		2			
計画大学院特別講義Ⅰ	1	集中講義					
計画大学院特別講義Ⅱ	1				1		

〔注1〕 ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目(6単位を限度とする。)の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注2〕 ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

知識情報工学専攻

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			1 年 次			2 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
必 修	知識情報工学輪講Ⅰ	3					
	知識情報工学輪講Ⅱ(※1)	3					
	知識情報工学特別研究(※2)	8					
	知識情報工学大学院特別講義Ⅰ	1	集中講義				
選 択	画像工学特論	2	2				
	システム科学特論	2	2				
	デジタルシステム理論	2		2			
	音声情報処理工学特論	2			2		
	並列・分散処理論	2	2				
	知識処理論	2		2			
	応用データベース論	2			2		
	化学アルゴリズム論	2			2		
	計量化学特論	2	2				
	分子設計工学	2	2				
	応用情報システム特論	2		2			
	認知心理工学	2			2		
	マルチメディア情報通信特論	2	2				
	神経系構成論	2		2			
	パターン情報処理特論	2	2				
	ソフトウェア工学特論	2		2			
	知能システム論	2	2				
	量子生物学	2	2				
	知識情報工学大学院特別講義Ⅱ	1				1	
	知識情報英語Ⅰ	1	1				
知識情報英語Ⅱ(A, B)	1		1				
知識情報英語Ⅲ(A, B)	1			1			

〔注1〕 ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目(6単位を限度とする。)の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注2〕 ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

エコロジー工学専攻

必 ・ 選 の 別	授 業 科 目	単 位 数	講 時 数				備 考
			1 年 次			2 年 次	
			1 学 期	2 学 期	3 学 期		
必 修	エコロジー工学輪講Ⅰ	3					
	エコロジー工学輪講Ⅱ(※1)	3					
	エコロジー工学特別研究(※2)	6					
選 択	分子生命科学特論	2		2			
	応用生物工学特論	2	2				
	環境電気電子工学特論	2		2			
	環境反応工学特論	2		2			
	環境数理工学特論	2	2				
	環境保全材料工学特論	2		2			
	物理化学特論Ⅰ	2	2				
	物理化学特論Ⅱ	2		2			
	エコロジー工学大学院特別講義Ⅰ	1	集中講義				
	エコロジー工学大学院特別講義Ⅱ	1	集中講義				

〔注1〕 ※1は、2年次で修得すべき授業科目であるが、特に成績の優秀な者に対しては、系の了解のもとに当該専攻科目又は他専攻の科目(6単位を限度とする。)の単位により、これに替えることができる。ただし、〔注2〕の条件が満たされていることを要す。

〔注2〕 ※2は、2年間で修得すべき授業科目であるが、特に顕著な成果をあげた者に対しては、これを1年次のみで修得可能とする。

工学研究科博士後期課程

I 修了要件等

1 修了要件

博士後期課程の修了要件は、博士後期課程に3年以上在籍し、課程修了に必要な最低修得単位数を以下のとおり修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することと定めている。ただし、優れた研究業績を上げた者については、在学期間を短縮して修了することができる。

なお、修士課程の授業科目（専攻科目の特別講義及び共通科目は除く。）及び他専攻の博士後期課程の授業科目を履修することができ、大学が適当と認めた場合は、その単位のうち4単位までに限り修了に必要な単位数に算入することができる。

区 分	修了要件単位数	備 考
機械・構造システム工学専攻	9	
機能材料工学専攻	9	
電子・情報工学専攻	9	
環境・生命工学専攻	9	

2 学位の申請

修了要件の単位を修得した者、又は修得見込みの者でなければ学位を申請することができない。なお、学位論文等の提出については、掲示で通知する。

Ⅱ 履修方法・試験・在学年限等

1 履修方法

- (1) 授業科目の履修に当たっては、指導教員の指導・助言によって授業科目を履修し、必要な研究指導を受けること。
- (2) 履修しようとする授業科目は、「受講科目履修登録表」により、指定の期日までにすべて履修登録しなければならない。
- (3) 単位を修得した授業科目については、再度履修登録することができない。
- (4) 再履修
定期試験等で不合格となった授業科目のうち、修得を必要とする授業科目は、原則として次年度に再履修すること。
なお、再履修しようとする授業科目についても、履修登録すること。

2 試験

試験には、定期試験及び追試験がある。

(1) 定期試験

定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて実施する。ただし、授業科目担当教員が必要と認めた場合は、随時に試験が行われる。

(2) 追試験

ア 追試験は、学生が次の理由により、当該授業科目の定期試験を受けることができなかった場合に限り、「追試験受験許可願」に授業科目担当教員等の許可を受けた上で、受験することができる。

① 病気（医師の診断書を添付）のとき

② 事故・災害（証明書を添付）及びその他（理由書を添付）正当と認められるとき

イ 「追試験受験許可願」は、定期試験最終日の翌日から数えて1週間以内に学務課へ提出しなければならない。

ウ 追試験を受験できなかった場合、再度の追試験は実施しない。

(3) 単位の認定及び成績評価

授業科目の単位認定は、試験等により授業科目担当教員が行う。

① 成績の評価は次の基準によって行い、A、B及びCを合格、Dを不合格とし、C以上の評価を得た場合に単位を認定する。

A・・・80点以上

B・・・65点以上80点未満

C・・・55点以上65点未満

D・・・55点未満

② 単位認定された成績は、各学期終了後、学務課から「単位修得表」により通知する。（配付日は、掲示により通知する。）

3 在学年限

博士後期課程の学生は、6年を超えて在学することができない。

4 休学

疾病その他特別の理由により、引き続き2か月以上修学することができない場合は、所定の「休学願」を指導教員及び所属専攻主任を経由して、原則として休学をしようとする月の前々月の末日までに学務課へ提出し、学長の許可を得て休学することができる。（通算して2年以内）。

休学期間は、前記「3 在学年限」に算入しない。

なお、休学期間が満了となり、復学する場合は、「復学届」を提出しなければならない。

また、休学事由の消滅により、休学期間中に復学しようとする場合は、「復学願」を提出し、原則として復学をしようとする月の前々月の末日までに学務課へ提出し、学長の許可を受けなければならない。

5 退学・除籍

本紙の23頁（4）退学，（5）除籍の項を参照。

Ⅲ 教育課程

1 授業科目・単位等

(1) 授業科目

授業科目は専攻科目だけであり、それぞれの授業科目ごとに単位を定めている。
開講授業科目については、次頁以降の「2 専攻科目」に掲載してある。

(2) 単位の計算方法

授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれか、又はこれらの併用により行われるが、1単位の履修時間は、次の基準により計算する。

- ① 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。

(3) 授業期間

授業期間は、学年暦（表紙裏面参照）によって定めており、第1学期、第2学期及び第3学期の3学期から成っている。

2 専攻科目

機械・構造システム工学専攻

必修・ 選択 の別	授 業 科 目 (科目コード)	単 位 数	担当教員名	教育研究分野	備 考
必修	機械・構造システム工 学輪講 (311000)	3	各 教 員		
選択	機械ダイナミクス特論 (312015)	2	河 村 庄 造 感 本 広 文	機械システム工学	
選択	構造信頼性工学特論 (312020)	2	本 間 寛 臣 関 東 康 祐		
選択	トライボロジー特論 (312030)	2	上 村 正 雄 竹 市 嘉 紀		
選択	移動現象学特論 (312040)	2	北 村 健 三		
選択	燃焼工学特論 (312050)	2	野 田 進		
選択	熱工学特論 (312060)	2	三 田 地 紘 史 中 川 勝 文 鈴 木 孝 司		
選択	流体力学特論 (312070)	2	蒔 田 秀 治		
選択	油空圧工学特論 (312080)	2	日 比 昭 柳 田 秀 記		
選択	計測・制御工学特論 (312090)	2	高 木 章 二 鈴 木 新 一 内 山 直 樹		
選択	変形加工学特論 (312100)	2	森 謙 一 郎 牧 清 二 郎		
選択	除去加工学特論 (312110)	2	堀 内 幸 柴 田 隆 行		
選択	付加加工学特論 (312120)	2	福 本 昌 宏 安 井 利 明		
選択	空間構造システム特論 (312130)	2	加 藤 史 郎 山 田 聖 志	構造システム工学	
選択	複合システム構成特論 (312140)	2	河 邑 眞 三 浦 均 也		
選択	構法・材料設計学特論 (312150)	2	角 本 徹 三 倉 本 洋		

注) 開講年次は、指導教員に確認すること

機能材料工学専攻

必修・ 選択 の別	授 業 科 目 (科目コード)	単 位 数	担 当 教 員 名	教 育 研 究 分 野	備 考
必修	機能材料工学輪講 (321000)	3	各 教 員		
選択	金属材料生産工学特論 (322020)	2	川 上 正 博 竹 中 俊 英 横 山 誠 二	材料設計工学	英語で講義する
選択	分子材料合成工学特論 (322040)	2	岩 佐 精 二		
選択	Advanced Molecular Design Engineering (322051)	2	関 野 秀 男 後 藤 仁 志		
選択	Advanced Medical Materials (322075)	2	新 家 光 雄 戸 田 裕 之	材料解析工学	
選択	材料評価解析工学特論 (322080)	2	神 野 清 勝 平 田 幸 夫 服 部 敏 明		
選択	無機材料解析工学特論 (322090)	2	逆 井 基 次 松 田 厚 範		
選択	材料表面解析工学特論 (322100)	2	堤 和 男 大 串 達 夫 西 宮 伸 幸 松 本 明 彦		
選択	Advanced Materials Property Engineering (322111)	2	梅 本 実 土 谷 浩 一		
選択	有機材料応用工学特論 (322120)	2	竹 市 力 伊津野 真 一 吉 田 絵 里	材料応用工学	
選択	生体分子特性工学特論 (322130)	2	青 木 克 之 吉 田 祥 子		
選択	無機材料応用工学特論 (322140)	2	角 田 範 義 水 嶋 生 智		
選択	分子情報工学特論 (322150)	2	阿 部 英 次 高 橋 由 雅 栗 田 典 之		

注) 開講年次は、指導教員に確認すること

電子・情報工学専攻

必修・ 選択 の別	授 業 科 目 (科目コード)	単 位 数	担当教員名	教育研究分野	備 考
必修	電子・情報工学論講 (331000)	3	教育研究分野①②の各教員		いずれか3単位以上
必修	文化システム論講 (331010)	3	教育研究分野③の各教員		
選択	電気エネルギー工学特論 (332010)	2	長尾雅行 穂積直裕	① 電気・電子工学	
選択	新エネルギー応用工学特論 (332020)	2	榊原建樹		
選択	放電プラズマ工学特論 (332080)	2	滝川浩史		
選択	エネルギー変換工学特論 (332030)	2	恩田和夫 乾 義尚		
選択	電子物性工学特論 (332040)	2	井上光輝 服部和雄		
選択	電子材料工学特論 (332050)	2	太田昭男 中村雄一 内田裕久 福田光男		
選択	デバイス工学特論 (332060)	2	古川泰男 石田昭誠 若原昭浩		
選択	集積回路工学特論 (332070)	2	米津宏雄 朴田康司 澤田和明		
選択	計算機システム工学特論 (332090)	2	中市島浩一 小川周常 小宮康		
選択	ソフトウェア工学特論 (332100)	2	磯田定宏 河合和久 廣津登志夫		
選択	データベースシステム特論 (332110)	2	今年度開講せず	② システム情報工学	
選択	情報数理工学特論 (332120)	2	増山繁弘 藤戸敏弘		
選択	神経数理工学特論 (332130)	2	今年度開講せず		
選択	人工知能工学特論 (332140)	2	中秋聖一 北葉友英 岡教		
選択	画像生成工学特論 (332145)	2	栗山繁		
選択	パターン情報処理工学特論 (332150)	2	新田恒雄 三宅哲夫 杉浦彰彦 金澤靖		
選択	情報データ処理工学特論 (332155)	2	青野雅樹		
選択	脳・神経システム工学特論 (332160)	2	堀川順生 中内茂樹 北崎充晃		
選択	制御システム工学特論 (332170)	2	寺嶋一彦 宇野洋二 福村直博		
選択	システム解析学特論 (332180)	2	清水良好 石田好一 村越一輝 支		
選択	情報通信工学特論 (332190)	2	梅村恭司 後藤藤信 夫		
選択	信号処理工学特論 (332200)	2	田所嘉昭 章堀畑和忠 和 聡 和 干		
選択	通信方式工学特論 (332210)	2	横山光雄 上原秀幸		
選択	応用言語学特論 (332220)	2	氏加平明 村藤三保子 中森由起子 森 泰之		
選択	西洋自然思想特論 (332230)	2	山本淳 小杉隆 浜島昭二		
選択	西洋文化・文明特論 (332240)	2	田村真奈美	③ 文化システム	
選択	言語学特論 (332250)	2	伊藤光彦 尾崎一志 西村政人 吉村弓子		
選択	技術管理特論 (332260)	2	藤原孝男 洪澤博幸		
選択	西洋文化史特論 (332270)	2	相京邦宏		

注) 開講年次は、指導教員に確認すること

環境・生命工学専攻

必修・ 選択 の別	授 業 科 目 (科目コード)	単 位 数	担当教員名	教育研究分野	備 考
必修	環境・生命工学輪講 (341000)	3	各 教 員		
選択	空気・温熱環境工学特論 (342010)	2	松 本 博	環境計画学	
選択	都市環境計画特論 (342020)	2	大 貝 彰 松 島 史 朗		
選択	建築・地区環境計画特論 (342030)	2	渡 邊 昭 彦 加 藤 彰 一		
選択	地域環境計画特論 (342040)	2	廣 島 康 裕 泉 田 英 雄		
選択	環境経済学特論 (342050)	2	山 口 誠 宮 田 謙 平 松 登 志 樹		
選択	水環境工学特論 (342060)	2	青 木 伸 一 井 上 隆 信 加 藤 藤 茂	環境保全学	
選択	生態保全工学特論 (342070)	2	北 田 敏 廣 木 曾 祥 秋		
選択	エネルギー環境工学特論 (342080)	2	成 瀬 一 郎		
選択	燃焼環境工学特論 (342090)	2	鷲 田 伸 明 金 田 照 濬		
選択	産業エコロジー工学特論 (342150)	2	藤 江 幸 一 後 藤 尚 弘		
選択	環境生物機能工学特論 (342100)	2	平 石 明	生命工学	
選択	生命分子工学特論 (342110)	2	桂 進 司 裕 俊 彦		
選択	細胞応用工学特論 (342120)	2	水 野 彰 辻 野 秀 人		
選択	環境電磁界応用工学特論 (342130)	2	田 中 三 郎 西 和 久		
選択	健康科学特論 (342140)	2	安 田 好 文 柳 原 大		
選択	生命科学特論 (342170)	2	菊 池 洋		
選択	生命化学特論 (342180)	2	田 中 照 通		

注) 開講年次は、指導教員に確認すること

添 付 資 料

豊橋技術科学大学工学部教育課程及び履修方法等に関する規程

(平成 16 年 4 月 1 日規程第 81 号)

(趣旨)

第 1 条 豊橋技術科学大学工学部の教育課程及び履修方法等は、豊橋技術科学大学学則（昭和 53 年 4 月 1 日制定。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(授業科目及び単位数等)

第 2 条 学則第 24 条第 2 項に規定する工学部の授業科目及び単位数等は、別表 1 のとおりとする。

2 前項の授業科目は、一般基礎Ⅰ、一般基礎Ⅱ、一般基礎Ⅲ、一般基礎Ⅳ、専門Ⅰ及び専門Ⅱの区分を設けるものとする。

(単位の計算方法)

第 3 条 学則第 25 条に規定する授業科目の単位の計算方法は、次の基準によるものとする。

- (1) 講義については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 演習については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技については、45 時間の授業をもって 1 単位とする。

2 特別研究及び卒業研究等の授業科目の単位計算方法は、前項第 3 号に準ずるものとする。

(授業時間等)

第 4 条 単位計算における授業時間は、50 分をもって 1 時間の授業とする。

2 1 講義時間は、75 分とし、1 講義時間を最小単位として授業を行うものとする。

(授業期間)

第 5 条 学則第 26 条に規定する授業科目の授業は、10 週にわたる期間を単位として行うものとする。

(履修方法)

第 6 条 学生は、在学年次及び在学課程の教育課程に従って履修するものとする。ただし、教育上有益と認められる場合は、所属課程の上級年次の科目及び他課程の科目（実験、実習科目を除く。）を履修することができるものとする。

(履修登録)

第7条 履修しようとする授業科目は、所定の期日までに履修登録しなければならない。履修登録をしていない授業科目については、単位が与えられない。

2 履修登録をした授業科目の変更又は取消しをする場合は、履修科目変更願を所定の期日までに提出しなければならない。

3 単位を修得した授業科目については、再度履修登録することができない。

4 授業時間割上、同一時間に開設される授業科目については、原則として重複して履修登録することができない。

(定期試験)

第8条 定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて行う。ただし、授業科目担当教員が必要と認めた場合は、随時に試験を行うことができる。

(追試験)

第9条 追試験は、学生が次の理由により当該授業科目の定期試験を受けることができなかつた場合に限り、願い出により受験することができる。

(1) 病気(医師の診断書を添付)のとき

(2) 事故・災害(証明書を添付)及びその他(理由書を添付)正当と認められるとき

(再試験)

第10条 再試験は、第4年次末定期試験等の結果、不合格科目が2科目5単位以内の者で、その科目が合格することにより卒業資格を得ることができる場合に限り、次の科目について再試験を受験することができる。

(1) 第3年次通年開講の専門Ⅱの科目(実験、実習科目を除く。)

(2) 第3年次第3学期開講の専門Ⅱの科目(実験、実習科目を除く。)

(3) 第4年次開講の専門Ⅱの科目(実験、実習科目を除く。)

(成績の評価)

第11条 学則第29条に規定する成績の評価は、次の基準により行うものとする。

(1) A・・・80点以上

(2) B・・・65点以上から80点未満

(3) C・・・55点以上から65点未満

(4) D・・・55点未満

(再履修)

第12条 不合格科目のうち、修得を必要とする科目については、原則として次年度再

履修するものとする。なお、授業担当教員が試験等により単位認定できると認めた場合は、履修を要しないものとする。

2 再履修しようとする科目は、第7条に規定する履修登録をしなければならない。

(入学前の既修得単位の取扱い)

第13条 学則第28条の3に規定する第1年次入学者の既修得単位については、当該入学年次に係る教育課程の科目の内、一般基礎Ⅰ、一般基礎Ⅱ又は一般基礎Ⅲの単位として認定するものとする。

(卒業の要件)

第14条 学則第30条第1項に規定する卒業に要する授業科目及び単位数は、次のとおりとする。

(1) 一般基礎Ⅰについては、16単位

(2) 一般基礎Ⅱについては、18単位

(3) 一般基礎Ⅲについては、10単位

(4) 一般基礎Ⅳについては、6単位

(5) 専門Ⅰについては、30単位

(6) 専門Ⅱについては、50単位

2 第3年次入学者の卒業に要する授業科目及び単位数は、学則第30条第2項に規定により第1年次及び第2年次において65単位を修得したものとみなし、前項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 一般基礎Ⅱについては、8単位

(2) 一般基礎Ⅲについては、4単位

(3) 一般基礎Ⅳについては、3単位

(4) 専門Ⅰについては、50単位

(指導留年)

第15条 第2年次末において、既に修得した科目及び単位数が別表2に掲げる各課程で定めた科目修得基準に達しない者は、第3年次へ進級することができない。

(課程間の移籍)

第16条 学則第23条に規定する課程間の移籍に関し、第1年次入学者については、次により取扱うものとする。

(1) 出願時期は、第2年次の年度末とする。

(2) 出願資格を有する者は、出願時に所属する課程が定めた科目修得基準を満た

しているものとする。

- (3) 選考時期は、第2年次の年度末とする。
 - (4) 移籍は、受入れ課程において面接その他の方法により選考するものとする。
 - (5) 移籍に伴う人数の増減は、第2年次の各課程において2名以内とする。
 - (6) 受入れ課程は、移籍後の履修に関し、条件を付すことができる。
 - (7) 移籍前の修得単位は、移籍後の卒業所要単位として認定することができる。
- 2 学則第23条に規定する課程間の移籍に関し、第3年次入学者については、次により取扱うものとする。

- (1) 出願時期は、第3年次の年度末とする。
 - (2) 選考時期は、第3年次の年度末とする。
 - (3) 移籍に関する選考は、次の場合に限り、現に在籍する課程と協議の上、受入れ課程において行うものとする。
 - ① 受入れ課程において設備に余裕があり、教育研究指導に支障がないとき
 - ② 移籍を希望する学生の第3年次までの学業成績が優秀と認められるとき
 - (4) 受入れ課程は、移籍後の履修に関し、条件を付すことができる。
 - (5) 移籍前の修得単位は、移籍後の卒業所要単位として認定することができる。
- (その他)

第17条 この規程に定めるもののほか、履修に関する必要な事項は、教授会の議を経て学長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 豊橋技術科学大学工学部教育課程及び履修方法等に関する規則（平成4年2月26日制定。以下「旧規則」という。）は、廃止する。
- 3 平成15年度以前の学部入学者及び編入学者に係る教育課程及び履修方法等については、なお旧規則の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成17年4月1日から施行する。

- 2 豊橋技術科学大学工学部教育課程及び履修方法等に関する規則（平成4年2月26日制定。以下「旧規則」という。）は、廃止する。
- 3 平成15年度以前の学部入学者及び編入学者に係る教育課程及び履修方法等については、なお旧規則の例による。

豊橋技術科学大学実務訓練の履修に関する規程

(平成 16 年 4 月 1 日規程第 85 号)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、豊橋技術科学大学学則（昭和 53 年 4 月 1 日制定）第 24 条の 2 第 2 項の規定に基づき、実務訓練の履修に関し必要な事項を定める。

(実務訓練の授業)

第 2 条 実務訓練の授業は、実習により行うものとする。

(実務訓練機関)

第 3 条 学生が実務訓練を履修する国若しくは地方公共団体の機関又は企業等の法人（以下「実務訓練機関」という。）は、実務訓練実施委員会の議を経て、学長が選定する。

(実務訓練の履修)

第 4 条 実務訓練を履修する学生（以下「実務訓練学生」という。）は、実務訓練機関の定める諸規則及び実務訓練指導責任者（実務訓練機関における実務訓練の指導責任者であって、学長が委嘱する者をいう。以下同じ。）の指示に従って実務訓練を履修しなければならない。

(実務訓練時間)

第 5 条 実務訓練の時間は、実務訓練機関において定める時間又は実務訓練指導責任者の指定する時間とする。

(休日)

第 6 条 実務訓練学生の休日は、実務訓練機関において定める休日とする。

(提出書類)

第 7 条 実務訓練学生は、次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。

- (1) 実務訓練履修票
- (2) 実務訓練学生調書
- (3) 誓約書
- (4) 異動報告書（実務訓練期間中に配属先等を異動した場合に限る。）
- (5) 実務訓練報告書
- (6) その他実務訓練実施委員会で必要と認めるもの

2 前項各号に掲げる書類の様式、提出手続等は、実務訓練実施委員会が定める。

- 3 第1項第2号及び第3号に掲げる書類は、実務訓練機関所定の実務訓練申込書又は誓約書をもつて替えることができる。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、実務訓練に関し必要な事項は、学長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 豊橋技術科学大学実務訓練の履修に関する規則(昭和55年4月1日制定)は、廃止する。

豊橋技術科学大学大学院教育課程及び履修方法等に関する規程

(平成 16 年 4 月 1 日規程第 82 号)

(趣旨)

第 1 条 豊橋技術科学大学大学院の教育課程及び履修方法等は、豊橋技術科学大学学則（昭和 53 年 4 月 1 日制定。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(授業科目及び単位数)

第 2 条 学則第 47 条に規定する修士課程の授業科目及び単位数は、別表 1 のとおりとする。

2 学則第 47 条に規定する博士後期課程の教育研究分野並びに授業科目及び単位数は、別表 2 のとおりとする。

(単位の計算方法)

第 3 条 学則第 48 条に規定する授業科目の単位の計算方法は、次の基準によるものとする。

(1) 講義については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 演習については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(3) 実験、実習及び実技については、45 時間の授業をもって 1 単位とする。

2 特別研究等の授業科目の単位計算方法は、前項第 3 号に準じるものとする。

(授業時間等)

第 4 条 単位計算における授業時間は、50 分をもって 1 時間の授業とする。

2 1 講義時間は、75 分とし、1 講義時間を最小単位として授業を行うものとする。

(授業期間)

第 5 条 学則第 48 条に規定する授業科目の授業は、10 週にわたる期間を単位として行うものとする。

(指導教員)

第 6 条 入学を許可された学生には、入学時に専攻に従って、それぞれ指導教員を定めるものとする。

(履修計画)

第 7 条 学生は、指導教員の指導助言によって授業科目を履修し、必要な研究指導を受けるものとする。

(修士課程の履修方法)

第8条 学生は、在学年次及び在学専攻の教育課程に従って履修するものとする。ただし、教育上有益と認められる場合は、他専攻及び他課程の科目を履修することができるものとする。

(博士後期課程の履修方法)

第9条 学生は、在学年次及び在学専攻の教育課程に従って履修するものとする。ただし、教育上有益と認められる場合は、修士課程及び他専攻の科目を履修することができるものとする。

(履修登録)

第10条 履修しようとする授業科目は、所定の期日までに履修登録しなければならない。履修登録をしていない授業科目については、単位が与えられない。

2 履修登録をした授業科目の変更又は取消しをする場合は、履修科目変更願を所定の期日までに提出しなければならない。

3 単位を修得した授業科目については、再度履修登録することができない。

4 授業時間割上、同一時間に開設される授業科目については、原則として重複して履修登録することができない。

(定期試験)

第11条 定期試験は、原則として各学期末に一定の期間を定めて行う。ただし、授業科目担当教員が必要と認めた場合は、随時に試験を行うことができる。

(追試験)

第12条 追試験は、学生が次の理由により当該授業科目の定期試験を受けることができなかつた場合に限り、願い出により受験することができる。

(1) 病気(医師の診断書を添付)のとき

(2) 事故・災害(証明書を添付)及びその他(理由書を添付)正当と認められるとき

(成績の評価)

第13条 学則第48条に規定する成績の評価は、次の基準により行うものとする。

(1) A・・・80点以上

(2) B・・・65点以上から80点未満

(3) C・・・55点以上から65点未満

(4) D・・・55点未満

(再履修)

第 14 条 不合格科目のうち、修得を必要とする科目については、原則として次年度再履修するものとする。なお、授業担当教員が試験等により単位認定できると認めた場合は、履修を要しないものとする。

(修士課程修了に要する授業科目及び単位数)

第 15 条 学則第 50 条第 1 項に規定する修了に要する授業科目及び単位数は、別表 1 に定める当該専攻科目のうちから 24 単位以上、共通科目のうち社会計画工学関係科目から 2 単位以上、社会文化学関係科目から 4 単位以上をそれぞれ修得するものとする。

(博士後期課程修了に要する授業科目及び単位数)

第 16 条 学則第 50 条第 3 項、第 4 項及び第 5 項に規定する修了に要する授業科目及び単位数は、別表 2 に定める当該専攻科目のうちから 9 単位以上を修得するものとする。

(学位論文の提出)

第 17 条 前 2 条による所定の単位を修得した者又は修得見込みの者でなければ修士論文又は博士論文を提出することができない。

(最終試験)

第 18 条 最終試験は、第 15 条又は第 16 条に定める所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は博士論文を提出した者について行うものとする。

(その他)

第 19 条 この規程に定めるもののほか、履修に関する必要な事項は、教授会の議を経て学長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 豊橋技術科学大学大学院教育課程及び履修方法等に関する規則（平成 4 年 2 月 26 日制定。以下「旧規則」という。）は、廃止する。
- 3 平成 15 年度以前の入学者に係る教育課程及び履修方法等については、なお旧規則の例による。

豊橋技術科学大学学位規程

(平成 16 年 4 月 1 日規程第 80 号)

目次

第 1 章 総則 (第 1 条)

第 2 章 学位授与 (第 2 条, 第 3 条)

第 3 章 学位論文審査 (第 4 条～第 12 条)

第 4 章 雑則 (第 13 条～第 18 条)

附則

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この規程は、学位規則 (昭和 28 年文部省令第 9 号) 第 13 条及び豊橋技術科学大学学則 (昭和 53 年 4 月 1 日制定。以下「学則」という。) 第 31 条第 2 項及び第 51 条第 3 項の規定に基づき、豊橋技術科学大学 (以下「本学」という。) が授与する学位に関し必要な事項を定めるものとする。

第 2 章 学位授与

(学位授与の要件)

第 2 条 学則第 31 条第 1 項の規定による学士の学位の授与は、本学学部を卒業した者に対し行うものとする。

2 学則第 51 条第 1 項の規定による修士の学位の授与は、本学大学院の修士課程を修了した者に対し行うものとする。

3 学則第 51 条第 1 項の規定による博士の学位の授与は、本学大学院の博士課程を修了した者に対し行うものとする。

4 学則第 51 条第 2 項による博士の学位の授与は、本学大学院の行う博士論文の審査に合格し、かつ、本学大学院博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認 (以下「学力の確認」という。) された者に対し行うことができる。

(学位記)

第 3 条 学位記の様式は、別記様式第 1 号から別記様式第 4 号までのとおりとする。

第 3 章 学位論文審査

(学位論文の提出)

第 4 条 本学大学院の学生で、学位の授与を受けようとする者は、所定の期日までに

次の各号の一に該当する書類を学長に提出するものとする。

(1) 修士の学位授与の申請にあつては、修士論文、論文内容の要旨

(2) 博士の学位授与の申請にあつては、博士論文、論文目録、論文内容の要旨、
履歴書

2 第2条第4項の規定により学位の授与を受けようとする者は、所定の学位申請書に前項第2号に規定する書類及び学位論文審査手数料を添えて、学長に提出するものとし、学位論文審査手数料の額は、別に定める額とする。ただし、本学大学院の博士課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上退学した者が、退学後1年以内に申請する場合にあつては、学位論文審査手数料の納入は要しない。

3 提出する修士論文又は博士論文（以下「学位論文」という。）は1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

4 審査のため必要がある場合は、参考資料を提出させることがある。

5 受理した学位論文等及び学位論文審査手数料は、返還しない。

（学位論文審査等の付託）

第5条 学長は、前条第1項及び第2項の規定により提出された学位論文を受理したときは、その審査、最終試験及び学力の確認を教授会に付託するものとする。

（審査委員会）

第6条 教授会は、前条の規定による審査付託があつたときは、工学研究科担当の複数の教員で組織する審査委員会を設ける。

2 審査委員会は、審査に当たって必要があるときには、教授会の議を経て、他の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。

（最終試験）

第7条 最終試験は、学位論文を中心とした関連専門分野に関する研究能力及び学識について口述又は筆記により行うものとする。

（学力の確認）

第8条 学力の確認は、口述又は筆記による試験により行う。この場合において、外国語については2種類を課する。ただし、教授会が特別の事情があると認めるときは、1種類とすることができる。

2 第4条第2項ただし書きに規定する者が、退学後1年以内に博士論文を提出したときは、学力の確認に代えて最終試験を行うことができる。

(審査期間)

第9条 審査委員会は、第2条第2項及び同条第3項の規定による学位授与の申請に係る論文の審査及び最終試験を、原則として当該学生の在学期間内に終了するものとする。

2 審査委員会は、第2条第4項の規定による学位授与の申請に係る論文の審査及び学力の確認を、当該申請を受理した日から1年以内に終了しなければならない。ただし、特別の事情があるときは、審査期間を延長することができる。

(審査結果の報告)

第10条 審査委員会は、当該学位論文の審査及び最終試験又は学力の確認を終了したときは、その結果を文書により教授会に報告するものとする。

(課程修了の認定等)

第11条 教授会は、修得単位並びに前条の報告に基づき、課程修了及び学位授与の認定について審議し、その結果を学長に報告するものとする。

(学位授与の通知)

第12条 学長は、前条の報告に基づき、学位を授与できると認める者に学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨を通知するものとする。

第4章 雑則

(学位授与の報告)

第13条 学長は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に文部科学大臣に報告するものとする。

(博士論文の要旨等の公表)

第14条 学長は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表するものとする。

(博士論文の公表)

第15条 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に、当該博士論文を印刷公表しなければならない。ただし、既に印刷公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない理由がある場合には、本学の承認を得て、当該博士論文の全文に代えてその内容を要約したものを印刷公表することができる。この場合においては、本学は、当該博士論文の

全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

(学位名称の使用)

第 16 条 学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、「豊橋技術科学大学」の名称を付記するものとする。

(学位授与の取消)

第 17 条 学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、教授会の議を経て、学位授与を取り消し、学位記を返還させるものとする。

(その他)

第 18 条 この規則に定めるもののほか、学位に関し必要な事項は、教授会の議を経て、学長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 豊橋技術科学大学学位規則(昭和 61 年 4 月 1 日制定。以下「旧学位規則」という。)は、廃止する。
- 3 旧学位規則の規定により授与された学位は、この規程により授与されたものとみなす。

豊橋技術科学大学修士の学位審査取扱細則

(平成 16 年 4 月 1 日細則第 25 号)

(趣旨)

第 1 条 この細則は、豊橋技術科学大学学位規程（平成 16 年度規程第 80 号。以下「規程」という。）第 18 条の規定に基づき、修士の学位審査取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

(論文審査の申請)

第 2 条 学位の授与を受けようとする者（以下「学位申請者」という。）は、指導教員の承認を得た上、学位申請書（別記様式第 1 号）を当該専攻の系長を経て学長に提出するものとする。

2 学位申請書の提出期間は、毎年 1 月 8 日から 1 月 16 日までとする。ただし、休学又は在学期間延長等のため修了時期を異にする場合の提出時期は、それぞれの修了時期に応じ、7 月修了の場合は 5 月とし、11 月修了の場合は 9 月とする。

(修士論文等の提出)

第 3 条 学位申請者は、修士論文及び論文内容の要旨各 1 通を所定の期日までに指導教員に提出するものとする。

(審査委員会)

第 4 条 規程第 6 条の審査委員会は、指導教員を含めて 2 名以上の工学研究科担当の講師以上の者をもつて組織する。

2 審査委員会の運営のため主査 1 名を置き、その他の者は副査とする。

3 審査に当たって必要があるときは、教授会の議を経て、審査委員に他の大学院又は研究所等の教員等を加えることができる。

(審査委員候補者の推薦)

第 5 条 当該専攻の系長は、前条に定める審査委員会の審査委員候補者を教授会に推薦するものとする。

(審査委員の指名)

第 6 条 教授会は、前条の審査委員候補者について審議し、審査委員を指名する。

(論文発表会)

第 7 条 当該専攻の系長は、提出された修士論文を審査するため、論文発表会を開催するものとする。

2 審査委員は、論文発表会に出席するものとする。

(最終試験)

第8条 最終試験は、次の方法によって行う。

- (1) 修士論文を中心として、これに関連のある科目についての口述又は筆記試験
- (2) 修士課程修了相当の外国語の能力の有無を判定するため、審査委員会が指定する1種類の外国語についての口述又は筆記試験

2 前項各号の最終試験は、論文発表会をもつて当てることができる。

(審査結果の報告等)

第9条 審査委員会は、修士論文の審査及び最終試験が終了したときは、その結果を文書(別記様式第2号)により教授会に報告する。

2 審査委員は、教授会の要請があつたときは、教授会に出席し、意見を述べるものとする。

(審査委員の変更)

第10条 指名された審査委員が、やむを得ない事情により審査を行うことができなくなった場合は、審査委員を変更することができる。

2 前項の審査委員の変更は、第5条及び第6条の規定により行うものとする。

(修士論文の保管)

第11条 学位を授与した修士論文は、附属図書館に保管する。

(その他)

第12条 この細則に定めるもののほか、修士の学位審査取扱いに関し必要な事項は、教授会の議を経て学長が定める。

附 則

1 この細則は、平成16年4月1日から施行する。

2 豊橋技術科学大学修士の学位審査取扱細則(昭和63年2月24制定)は、廃止する。

豊橋技術科学大学博士の学位審査取扱細則

(平成 16 年 4 月 1 日細則第 26 号)

(趣旨)

第 1 条 この細則は、豊橋技術科学大学学位規程（平成 16 年度規程第 80 号。以下「規程」という。）第 18 条の規定に基づき、博士の学位審査取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第 2 条 この細則において、「課程博士」とは規程第 2 条第 3 項により授与されるものをいい、「論文博士」とは同条第 4 項により授与されるものをいう。

(論文審査の申請)

第 3 条 学位の授与を受けようとする者（以下「学位申請者」という。）は、次の各号により申請するものとする。

(1) 課程博士の学位申請者は、指導教員の承認を得た上、学位申請書（別記様式第 1 号）を当該専攻の専攻主任を経て学長に提出するものとする。

(2) 論文博士の学位申請者は、工学研究科担当の講師以上の者を通して、学位申請書（別記様式第 2 号）を該当専攻の専攻主任を経て学長に提出するものとする。

2 課程博士の学位申請書の提出時期は、入学の時期に応じて次のとおりとする。ただし、休学又は在学期間延長等のため修了時期を異にする場合の提出時期は、3 月、6 月、9 月及び 12 月の各々 1 ケ月間とする。

入学の時期	学位申請書の提出時期
第 1 学期	1 月中の所定の時期
第 2 学期	4 月中の所定の時期
第 3 学期	8 月中の所定の時期

3 論文博士の学位申請書の提出時期は、3 月、6 月、9 月及び 12 月の各々 1 ケ月間とする。

(博士論文等の提出)

第 4 条 学位申請者は、次の各号により学位論文等を提出するものとする。

(1) 課程博士にあつては、博士論文（本文の前に、1,200 字程度の和文要旨及び 800 語程度の英文要旨を記述）、論文目録、論文内容の要旨及び履歴書各 4 通を所定の期日までに指導教員に提出するものとする。

(2) 論文博士にあつては、博士論文（本文の前に、1,200 字程度の和文要旨及び 800

語程度の英文要旨を記述), 論文目録, 論文内容の要旨, 履歴書及び業績報告書各4通を前条の学位申請書に添えて提出するものとする。

(論文博士の申請資格等)

第5条 論文博士の学位申請者は, 次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 本学大学院博士課程に所定の修業年限以上在学し, 所定の単位を修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上退学した者
- (2) 大学卒業後7年以上又は修士課程修了後4年以上の技術又は研究の経歴を有する者
- (3) 前号に掲げる者と同等以上の技術又は研究の経歴を有すると認められた者

(審査委員会)

第6条 規程第6条の審査委員会は, 主指導教員を含めて3名以上の工学研究科担当の講師以上の者をもって組織する。

2 審査委員会を主宰するため委員長を置き, 委員長は前項に定める審査委員の互選により決定する。

3 審査に当たって必要があるときは, 教授会の議を経て, 審査委員に他の大学院又は研究所等の教員等を加えることができる。

(審査委員候補者の推薦)

第7条 当該専攻の専攻主任は, 前条に定める審査委員会の審査委員候補者を教授会に推薦するものとする。

(審査委員の指名)

第8条 教授会は, 前条の審査委員候補者について審議し, 審査委員を指名する。

(公開審査会)

第9条 当該専攻の専攻主任は, 提出された博士論文を審査するため, 公開審査会を開催するものとする。

2 審査委員は, 公開審査会に出席するものとする。

3 当該専攻の専攻主任は, 公開審査会の開催に当たり, 開催日の1週間以前に開催の日時等を掲示するものとする。

(課程博士の最終試験)

第10条 課程博士の最終試験は, 博士論文を中心として, これに関連のある専門分野に関する研究能力及び学識についての口述又は筆記試験によって行う。

2 前項の課程博士の最終試験は, 公開審査会をもって当てることができる。

(論文博士の学力の確認)

第11条 論文博士の学力の確認は、次の方法によって行う。

- (1) 博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認するための口述又は筆記試験
- (2) 博士課程修了相当の外国語の能力の有無を判定するため、審査委員会が指定する2種類(ただし、教授会が特別の事情があると認める場合は、1種類)の外国語の能力についての筆記試験

2 前項第1号の学力の確認は、公開審査会をもって当てることができる。

(審査結果の報告等)

第12条 審査委員会は、博士論文の審査及び最終試験又は学力の確認が終了したときは、その結果を文書(別記様式第3号又は第4号)により教授会に報告する。

2 審査委員は、教授会の要請があつたときは、教授会に出席し、意見を述べるものとする。

(審査委員の変更)

第13条 指名された審査委員が、やむを得ない事情により審査を行うことができなくなった場合は、審査委員を変更することができる。

2 前項の審査委員の変更は、第7条及び第8条の規定により行うものとする。

(博士論文の保管)

第14条 学位を授与した博士論文は、附属図書館に保管する。

(その他)

第15条 この細則に定めるもののほか、博士の学位審査取扱いに関し必要な事項は、教授会の議を経て学長が定める。

附 則

- 1 この細則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 豊橋技術科学大学博士の学位審査取扱い細則(昭和63年1月27日制定)は、廃止する。

**豊橋技術科学大学と他の大学・短期大学又は高等専門学校との単位互換
協定に基づき修得した単位の認定等に関する申合せ**

平成 15 年 3 月 26 日教授会承認

平成 16 年 3 月 24 日一部改正

(趣旨)

第 1 この申合せは、学則第 28 条及び第 28 条の 2 の規定に基づき、他の大学・短期大学又は高等専門学校（以下「他大学等」という。）との単位互換協定による授業科目の履修の条件と修得した単位の認定等に関し必要な事項を定める。

(授業科目の履修の条件)

第 2 単位互換協定に基づき履修できる授業科目は、本学が開講する授業科目と重複しないものとする。

2 履修の申請があった場合、教務委員会は関係教員と協議の上、当該申請の授業科目について履修の可否を決定する。なお、履修可能な場合は、併せて授業科目区分を決定する。

(単位の認定等)

第 3 単位互換協定に基づき履修した授業科目について修得した単位数は、学則第 30 条第 1 項の規定に定める卒業に要する単位として認定する。

2 前項の規定に基づき認定する単位数は、6 単位を超えないものとする。

3 前項の規定に基づき認定する単位に係る成績評価は、他大学等の定めるところによる。

(教授会における審議)

第 4 この申合せの定めるところにより単位の認定を行う場合は、学則第 28 条及び第 28 条の 2 に定める教授会の議を経たものとみなす。

附 記

1 この申合せは、平成 15 年 4 月 1 日から実施し、平成 15 年 4 月 1 日に在籍する学生から適用する。

附 記 (平成 16 年 3 月 24 日)

2 この申合せは、平成 16 年 4 月 1 日から実施し、平成 16 年 4 月 1 日に在籍する学生から適用する。

豊橋技術科学大学大学院と他の大学院との単位互換協定に基づき修得
した単位の認定等に関する申合せ

平成16年3月24日教授会承認

(趣旨)

第1 この申合せは、学則第49条の規定に基づき、他の大学院との単位互換協定による授業科目の履修の条件と修得した単位の認定等に関し必要な事項を定める。

(授業科目の履修の条件)

第2 単位互換協定に基づき履修できる授業科目は、本学が開講する授業科目と重複しないものとする。

2 履修の申請があった場合、教務委員会は関係教員と協議の上、当該申請の授業科目について履修の可否を決定する。なお、履修可能な場合は、併せて授業科目区分を決定する。

(単位の認定等)

第3 単位互換協定に基づき履修した授業科目について修得した単位数は、学則第50条第1項、第3項から第5項の規定に定める修了に要する単位として認定する。ただし、当該協定において履修可能な学部の授業科目は修了に要する単位に含めないものとする。

2 前項の規定に基づき認定する単位数の上限は、授業科目区分により次のとおりとする。

(1) 共通科目の場合は、履修要覧に定める修了要件において代替できる本学学部の他課程の科目と合算して2単位

(2) 専攻科目の場合は、履修要覧に定める修了要件において代替できる本学大学院の他専攻の科目と合算して6単位。ただし、機械システム工学専攻及び電気・電子工学専攻は4単位

3 前項の規定に基づき認定する単位に係る成績評価は、受入大学院の定めるところによる。

(教授会における審議)

第4 この申合せの定めるところにより単位の認定を行う場合は、学則第49条第2項に定める教授会の議を経たものとみなす。

附 記

この申合せは、平成16年4月1日から実施し、平成16年4月1日に在籍する学生から適用する。